













































































































































































































































Regional Information Networks (IRINNEWS.ORG)は、2004年8月16日、「人権活動家は、国内にある国営女性避難所の現状の抜本的改革を要求している」と報じた。記事はさらに、次のように報じている。

「HRW [ヒューマンライツ・ウォッチ]によると、女性の70%ないし80%が身体的虐待、性的虐待および言葉による虐待の形式で家庭内暴力を受けているパキスタンのような保守的社会において、女性避難所は必要な時に女性を支援するために設置された。しかし、活動家はそのような不可欠な避難所は、適切な支援を必要としていると述べている。

暴力被害者の社会復帰を支援している NGO である Struggle for Change (SACH) の理事 Khalida Saleemi 氏は、「既存の国営女性避難所は、『ごみ捨て場』のようであり、また刑務所よりも劣っている。女性はいったん避難所に入ると、裁判所命令を取得しない限り避難所を出ることはできない」とパキスタンの首都イスラマバードで IRIN に語っている。

「難民避難所の女性のすべては、ストレスを受けながら生活しているため、カウンセリングは、これらの女性にとって最も不可欠なニーズの1つであるが、これら避難所のうちで内部カウンセラーを置いている避難所は1つもない」と Saleemi 氏は述べ、政府は身体的に傷つき、かつ情緒的に不安定な女性に対する適切な治療サービスと精神医学サービスを手配すべきですと付言している。

6.145 IRIN の報告書はまた、次のように述べている。

「避難所にいる女性の保護と安全は、常に重要な問題である。宗教保守派は、避難所の安全状況に対してしばしば懸念を提起し、女性居住者を搾取していると施設運営者を幾度か非難した。このような非難は、女性の場所は男性支配の家庭にあると定義する文化基準に由来する。

さらに、権利活動家は、訪問者に関する規則が破られることがしばしばあると述べている。ある場合には、指定当局からの正式の許可なしに避難所内に入ることを許される人もいるが、人権活動家は立ち入りを拒否されている。」

(女性が利用できる支援に関する 6.B 項のサブセクションも参照のこと)

## 名誉の殺人

6.146 パキスタンに関する 2005 Freedom House の報告書は、次のように述べている。

「HRCP [パキスタン人権委員会]によると、少なくとも 600 人の女性が 2003 年に

いわゆる名誉の殺人で家族構成員によって殺害された。被害者の男性親族によって通常行われる名誉の殺人は、家族に恥辱を与えたと言われる女性を処罰するものである。2004年10月、下院は名誉の殺人を犯した者に対し厳しい刑と死刑の可能性を導入する政府法案を可決した。しかし、当局が一般的に女性に対する暴力の加害者を積極的に起訴して有罪を宣告しない環境を考慮して、活動家は法案の実効性に疑問を投げかけている。」

6.147 2005年2月28日に発表された米務省 Report 2004 (USSD)によると、状況は次とおりである。

「名誉の殺人は、引き続き問題となっており、女性は主な犠牲者である。地元の人権団体は、2004年に1,458件の名誉の殺人を証明した。まだ多くの事件が報告されていない可能性がある。シンド州は、報告された事件の過半数を占めているが、人権団体は名誉の殺人は、パンジャブ州、北西辺境州およびバルチスタン州でも行われていると確信している。・・・[2004年]10月26日、国民議会は名誉の事件にかかわる犯罪の処罰を強化し、また名誉の犯罪の加害者を許す被害者または相続人の権利を制限する法案を採択した。しかし、人権グループは、名誉の犯罪の加害者が限られた数の事件で、被害者や相続人によって依然として許される可能性があることを懸念している ([USSD 2004 の] 5 項を参照のこと)。」

6.148 USSD 2004 はさらに、次のように報告している。

「2004年に名誉の殺人と手足切断の刑が行われた ([USSD 2004 の] 1.a.項を参照のこと)。女性はしばしば、夫または男性の親族によって被害者となる。当局は、2003年6月から12ヶ月の間に1,261件の名誉の犯罪が発生し、その大部分はシンド州で行われたと報告している。名誉の犯罪はまた、パンジャブ州で普通に行われており、またバルチスタン州、北西辺境州および FATA [連邦管理部族地域] の部族の間でも行われている。[2004年]10月26日、国民議会は名誉にかかわるあらゆる犯罪の処罰の強化を規定し、かつ補償と引き換えに加害者を許す被害者または相続人の権利を制限する法律を採択した。」

6.149 Integrated Regional Information Networks (IRINNEWS.ORG)のニュース記事は2005年1月5日、「地元の NGO である人権と法的扶助のための弁護士 (LHRLA) によると、約1,458人の女性が2004年に殺害されたが、女性に対する昨年の報告暴力事件の総件数は4,300件を超えている」と報じている。

6.150 外務省の Annual Report on Human Rights 2005 は、Global Opportunities Fund プロジェクトの1つは次のとおりであると述べている。

「『名誉の殺人』に反対するために英国文化協会および Samina Khan 氏と協力し、農村地帯の人々と接触し、かつ名誉の殺人に反対する女性を支援することにより、行政における女性の役割を拡大するための2年プロジェクトである。この取り組みは、街頭劇、テレビドラマ、セミナー、現地語のちらしおよびポスターを含め、シンド州とパンジャブ州の農村地帯における一連の積極的な意識向上キャンペーンを含んでいる。2005年4月会計年度の支出は、3万7,100ポンドである。」

6.151 Integrated Regional Information Networks (IRINNEWS.ORG)は2005年5月20日、次のように報じている。

「国際 NGO の Oxfam は、パキスタン南部のパロチスタン州における『名誉』の殺人という広く行きわたった慣行の増加と闘うためのキャンペーンを開始した。・・・Oxfam のキャンペーン・マネージャーである Arif Mehmood 博士は、『近年、女性の命に対する暴力の危険が増加している。個人的利益、性的利益および金銭的利益のために近親者によって嫌がらせを受け、レイプされ、また殺害される女性が増えているが、大部分の場合は気づかれていない』とパロチスタン州の州都クエッタで IRIN に語った。同博士は、『女性は年齢に関係なく、紛争を解決し、土地を取得しまたは借金を返済するために殺されている。しかし、名誉は女性に対する犯罪を合法化するための便利な隠れ蓑として利用されている』と述べている。・・・Oxfam は、『名誉』という旗印のもとに殺される女性の数を大幅に減らすことを目的とする6年間のキャンペーンを通じて名誉の殺人の社会的容認を低減させることを目指している。・・・パキスタンの主要な権利団体であるパキスタン人権委員会 (HRCP) によってまとめられた統計によると、2004年に合計579人(そのうち女性は546人)が名誉の殺人の犠牲となった。この犯罪についてパキスタンの別の地域では異なる名称が用いられている。・・・このキャンペーンは、女性に対する暴力を終わらせようという Oxfam の南アジア地域キャンペーンの一環であり、キャンペーンにはバングラデシュ、インド、ネパール、パキスタンおよびスリランカの400を超える市民社会グループ・団体が関係している。

このキャンペーンは、パロチスタン州の Bolan、Sibbi、Naseerabad、Ja'ffarabad、Jhal Magsi および Khuzdar 地区で始まった。『我々は名誉の殺人を終わらせることができる』という運動は、今年11月に開始され、シンド州、パンジャブ州および北西辺境州 (NWFP) の17地区で実施されている。」

## レイプ

6.152 アムネスティ・インターナショナルの出版物 The Wire の2004年7月号は、次のように報告している。

「パキスタン人権委員会によると、パキスタンで2時間に1人の女性がレイプされ、また8時間に1人の女性が輪姦されている。レイプの頻度は、もっと多いと考えられているが、多くのレイプは社会的タブー、差別的な法律および警察による迫害の組み合わせによって報告されないままになっている。・・・これらの法律〔フドワード命令〕は、レイプされた女性と少女に対しほとんど不可能な立証責任を課している。女性や少女はレイプされたことを警察に報告すると、実際上婚姻外性交を認めたことになり、かつ同意の不存在を証明できないため、Zina の罪〔不法性交渉〕で起訴されることがしばしばある。この場合、加害者よりも被害者が有罪判決を受ける可能性が高い。」

6.153 2005年2月28日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように報告している。

「配偶者以外の者によるレイプは、刑事犯である。夫婦間レイプまたは加害者と被害者間の婚姻が契約されたが、挙式されていない場合におけるレイプについて起訴される者はいない。レイプは広く行われているが、起訴されるのはまれである。レイプ事件で警察に報告されるのは3分の1未満であると推定されている。警察がレイプ事件に関係することが時々ある ([USSD 2004 の] 1.c.項を参照のこと)。」

6.154 USSD 2004 はまた、次のように述べている。

「レイプ被害者の多くは、訴えを取り下げるよう圧力を受ける。警察と加害者は、被害者が同意のなかったことを証明できない場合、姦通または私通で被害者を訴えたと脅すことがしばしばあり、レイプ被害者が姦通または私通の罪で刑務所に入れられる場合がある。フドワード命令に定めるレイプの立証基準は、被告がコーランに基づく処罰または世俗的な処罰に服すべきか否かに基づく。鞭打ちの刑または石打ちの刑になることのあるコーランに基づく処罰の場合、被害者はレイプを目撃した4人の成人イスラム教徒男性を証人として出すか、または被告から自白を引き出さなければならない。世俗的な処罰に対する立証基準は低く、処罰は最高で25年の懲役と30回の鞭打ちの刑である。この処罰は適用されている。裁判所、警察および検察官は、コーランに基づく証拠基準が満たされない場合、レイプ事件を提起するのを拒否することがある。」

6.155 USSD 2004 は、次のように述べている。

「警察は、女性がレイプの訴えを提起することを頻繁に思いとどまらせており、とりわけ被疑者から賄賂を贈られた場合は、被害者に乱暴し、または被害者を脅し、訴えを取り下げるよう要求することがしばしばある。警察は、被害者がレイプの訴えを提起する前に被害者に対し賄賂を要求し、調査はしばしばおざなりである。医

療関係者は一般的に、レイプの証拠を集める訓練を受けておらず、時には被害者を乱暴に扱い、またはののしり、姦通または私通を犯したと被害者を非難する。姦通または私通で訴えられた女性は、法律が女性の同意を要求しているにもかかわらず、女性の意思に反して身体検査を受けるよう強制される。裁判官は、レイプ加害者に有罪判決を下すことを躊躇し、さまざまな証拠基準を適用し、また時にはレイプで起訴された者よりも被害者を姦通または私通で有罪にすると脅すことがある。家族と部族は、レイプ被害者を殺し、または自殺するようそそのかすことがある。

6.156 USSD 2004 はさらに、次のように報告している。

「夫と男性家族構成員は、フドゥード命令に基づいて女性に対し虚偽の姦通・私通の訴えを提起することがしばしばある。裁判所が最終的に訴えを却下した場合でも、被告は数ヶ月、場合によっては数年も刑務所にとどまり、自分の評判が破滅するのを見ることになる。政府の女性の地位国内委員会は、フドゥード命令の廃止を支持している。[2004年]10月26日、国民議会は姦通と私通の主張の実態について評価するよう上級警察官に要求し、かつ女性が姦通と私通の容疑で逮捕される前に裁判所命令を必要とする法律を採択した。」

6.157 2005年初め、メディアはあるレイプ事件を大々的に報道した。この事件は、被害者の Mukhtar Mai さんが裁判所に訴えを提起したことで注目されることになった。2005年6月28日、BBCは次のように報じた。

「パキスタンの最高法院は、世界的な怒りを引き起こした悪名高い集団レイプに加わった男たちを無罪にすることを延期した。ラホール高等法院は3月、2002年に Mukhtar Mai さんをレイプした罪で起訴された5人を村議会の命令で無罪にしていた。最高法院は、Mai さん(33歳)の上诉を受けて無罪判決を延期することに同意し、政府・・・最高法院の Iftikhar Chaudhry 首席裁判官は、最高法院は事件の証拠を再審査すると述べた。判決において同首席裁判官は、14人 - ラホール高等法院によって無罪を言い渡された5人、死刑判決がラホール高等法院によって終身刑に減刑された6人目の男および当初の裁判で無罪を言い渡された他の8人 - は、拘留されるよう命じた。・・・報道によると、Mai さんの弟が影響力のある Mastoi 一族の女性と一緒にいるところを見られたため、村議会は Mai さんをレイプするよう命じたという。Mai さんと弟は、弟が Mastoi 一族の女性と一緒にいたという主張は、Mastoi の男性集団による弟に対する性的暴行を隠蔽するために行われたと述べている。Mai さんの弁護士は、ラホール高等法院の無罪判決は、不備があり、推測に基づいていると主張した。この事件は、Mai さんがパキスタンのイメージを損なうことを恐れて、ペルベズ・ムシャラフ大統領が Mai さんの外国旅行を禁止したことで、政治的意味合いを帯びた。政府は、Mai さんに保護が必要であると述べて、パンジャブ州中部の

Meerwala にある彼女の家に警官を配置させた。しかし、彼女は事実上、自宅監禁の状態であると不服を述べた。月曜日 [ 6月 27日 ] Mai さんは自分の旅券を戻されたことを確認した。パキスタンの裁判・社会制度の批判者は、Mukhtar Mai 事件はとりわけ封建的農村地帯の女性に対してしばしば加えられる驚くべき扱いの一例であると述べている。ムシャラフ大統領は、この事件は典型的なものではないと述べている。同大統領は、今月初めにニュージーランド旅行中、『わが国は、他の開発途上国に比較して劣っているわけではない』と語った。

### 女性が利用できる支援

6.158 2005年2月28日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「政府は、女性に対する暴力を非難している。政府の Crisis Center for Women in Distress は、支援のため虐待された女性を NGO に紹介している。虐待された女性のために避難所を運営している NGO の Struggle for Change は、2004年に67人の女性に対し社会復帰支援（避難所、就職相談および法的扶助）を行った。さらに157人の女性は、法的・金銭的支援を受けた。州政府は、困窮している女性のために地方レベルで避難所を運営している。ある場合には、避難所の管理人は、世話している女性を虐待することがある。」

### (家庭内暴力に関する 6.B項のサブセクションも参照のこと)

6.159 CRIN( 児童の権利情報ネットワーク )のウェブサイトは、児童と女性の誘拐事件( 報告された分 ) に関して、2005年1月に MADADGAAR ( 保護・紹介センター ) による調査を発表した。同調査は、次のように述べている。

「Madadgaar は、人権・法的扶助のための弁護士 (LHRLA) とユニセフの共同事業体である。Madadgaar は、パキスタンで初めての児童支援電話サービスと児童・女性保護サービスを行っている。Madadgaar は、パキスタンにおける人権違反、とりわけ児童と女性に対する人権違反に関する情報を集めるため、新聞で発表されたすべての事件または他の方法で知られているすべての事件をまとめている。最新のデータベースを維持するため、Madadgaar の職員はウルドゥー語、英語およびシンド語の日刊新聞 26 紙をチェックしている。このデータベースを利用して、Madadgaar はメディアを通じ女性と児童に対する虐待の事例に関して公衆に周知させるための努力を行っている。」

6.160 Madadgaar の調査報告書は、「昨年 [ 2004年 ] 2,906 件の誘拐事件が全国新聞と地元新聞で報告された。合計 2,906 件の女性・児童誘拐事件のうち、女性誘拐事件は 1,398

件、また女子誘拐事件は 981 件であった。527 件の事件で男子児童はパキスタンのさまざまな地域から誘拐されたと報じられている。」

- 6.161 人身売買の被害者に関して、2005 年 2 月 28 日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「政府は、複数の誘拐被害者を救助した。2003 年 6 月からの 14 ヶ月間で、海外パキスタン財団と Ansar Burney 福祉信託は、中東に人身売買されていた 5,700 人の市民を帰国させた。政府は、実際の人身売買被害者と潜在的な人身売買被害者のために、避難所と訓練プログラムを後援している。女性が保護され、治療を受け、限定的な法律代行をしてもらい、また職業訓練を受けている 276 ヶ所の収容所がある。政府は、外国の人身売買被害者に対し仮住所を与えている。FIA (連邦捜査局) と国際移住機関は、2004 年に政府担当官と NGO に対して人身売買に関する研修とセミナーを開催した。内務大臣はそのような活動に自ら従事している。人身売買を具体的に扱っている NGO は非常に少ない。しかし、多くの地元 NGO と州 NGO は、人身売買の被害者および人身売買される恐れのある者に対して避難所を提供している。」

(人身売買に関する 6.A 項のサブセクションも参照のこと)

#### 拘留女性の扱い

- 6.162 2005 年 2 月 28 日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように述

「レイプを含む拘留女性に対する虐待の訴えに対応して、女性職員のみからなる特別女性警察署が設置された。政府の女性の地位国内委員会は、特別女性警察署は主に人的・物的資源の不足により、実効的に機能していないと述べている。裁判所命令と規則は、男性警察官が女性容疑者に接触することを禁止しているが、女性が通常の警察署に拘留されて尋問されることがしばしばある。刑務所における女性の虐待の事例は少なくなっている。・・・女性の拘留者と囚人は、男性の拘留者と囚人と別に収容されている。女性の権利のために活動している NGO によると、2004 年末現在で約 3,000 人の女性が全国の刑務所に収容されている。」

#### 政治代表

- 6.163 2005 年 2 月 28 日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) によると、状況は次のとおりである。

「342 議席ある国民議会に 73 人の女性議員がいる。女性 5 人が入閣している。最高法院には女性裁判官はいない。国民議会では 60 議席が女性のために確保されており、州議会の 758 議席のうち 128 議席が女性に指定され、地方議会の議席のうち 3 分の 1 が女性に指定されている。ある地区では、社会・宗教保守派は女性が立候補するの



を妨げている。しかし、複数の地区で女性候補者が反対を受けることなく選出された。多数の女性が投票を行っているが、家族、宗教・部族指導者および社会習慣によって投票を思いとどまらされた女性もいる。北西辺境州の Lower Dir District の地元指導者は、女性が 3 月の地方政府補欠選挙に立候補することを許可しなかった。この合意と過去の合意の結果、地方議会で女性に割り当てられている 204 議席のうち 196 議席が空席となったままになっている。同じような禁止が Swabi 地方と北西辺境州の他の地区で合意されている。州の首席大臣は、内閣に女性を任命している。」

6.164 第一段階の地方選挙が行われたあと（4 項の歴史を参照のこと）2005 年 8 月 18 日に BBC は次のように報じた。

「市[カラチ]で最もカラフルで、かつ多様な民族が住む地区の 1 つである Lyari で、数百人の人々が自分たちの名前が [投票者] 名簿から落ちていたと訴えた。カラチに駐在する BBC の Aamer Ahmed Khan 氏によると、問題は女性用投票所でとりわけ深刻のようである。・・・部族の長老は、州の 3 つの地区で女性が投票することを禁止したが、政府は水曜日の遅くに地方ジルガ - 部族評議会 - に対し禁止を取り消すよう促した。しかし、当該地区からの報告は、多数の女性が投票に現れなかったと述べている。ペシャワルに駐在している BBC の Haroon Rashid 氏は、NWFP（北西辺境州）の首都ペシャワル郊外の女性投票所では、投票の最初の 5 時間で女性による投票は一票もなかったと述べている。人権活動家は、当該地区における選挙結果の取り消しを要求している。」

（2004 年の政治の動きとテロ行為に関する 4 項のサブセクション、選挙への女性の参加も参照のこと）

### 財産権および相続権

6.165 2005 年 2 月 28 日に発表された米 국무省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「相続法は、女性を差別している。女子は男子の相続分の半分しか受けることができない。妻は、夫の財産の 8 分の 1 しか相続できない。女性はしばしば、法的相続権をはるかに下回る財産しか受け取れないことがある。シンド州の農村地帯では、土地を所有する家族は、財産の分離を避けるために『コーランに基づく結婚』の慣習を続けている。コーランに基づいて結婚した女性の財産は、父親または長兄の法的支配に残り、これらの女性は 14 歳を超えた男性と接触することを禁止されている。」

（差別的な法律に関する 6.B 項のサブセクションも参照のこと）

## 児童 概観

6.166 1979年 Zina 犯罪（フドワードの執行）命令の第1章第2条第(a)項は、「本命令に矛盾する規定がない限り、『成人』とは、男子の場合には18歳に達した者または女子の場合には16歳に達したか、または思春期に達した者をいう」と規定している。

6.167 アムネスティ・インターナショナルの2002年報告書は、次のように述べている。  
「2000年7月、パキスタンは法律に抵触する児童の権利を保護する国連児童権利条約（CRC）に基づく義務を履行する努力の一環として、少年裁判所制度命令 [JJSO] を発布した。この命令はとりわけ、児童の年齢を18歳未満と定義し、少年に対する死刑を禁止し、保釈を認める明確な指針を定め、またより多くの少年院の設置を要求している。」（しかし、JJSOは2004年1月6日に廃止された - 以下を参照のこと）

6.168 上記の報告書はさらに、次のように述べている。  
「2003年4月、パキスタンは児童権利委員会に第二回定期報告書を提出した。2003年10月3日に提出された報告書の最終意見と勧告において、同委員会は『[JJSO]の施行が不十分であることと、施行を担当する当局の多くがJJSOの存在を認識していないことに懸念を表明した』。同委員会はまた、劣悪な条件で拘留され、成人犯罪人と一緒に収容され、また暴行と虐待を受けやすい非常に多くの児童が刑務所にいることに深い懸念を表明している。・・・アムネスティ・インターナショナルの調査団が最近パキスタンを訪問した際、調査団は逮捕、裁判および拘留の各段階において、JJSOの規定が実施されていない事例がかなりあることを発見した。軽犯罪で起訴された児童はしばしば、裁判を受けずに数ヶ月間も拘留され、保釈されることは全くなく、また利用できる法律上の代表者を提供されることもない。殺人といった重罪で起訴された場合、児童は裁判の終了を待ちながら、刑務所に数年間いることがある。最近の数字は、パキスタンで拘留されている児童の75%は裁判中であるが、実際に有罪判決を受ける割合は、15%ないし20%という低さであることを示している。拘留中、少年と少女は、国内法の規定に違反して成人と一緒に収容され、鎖につながれて輸送されることが頻繁にある。」

6.169 2005年2月28日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように報告している。

「12月5日、ラホール高等法院は少年の権利を守ることを意図していた少年裁判所制度命令を憲法違反になるほどあいまいであるという理由で無効にした。年末現在、この判決は最高法院へ上訴されているため停止されている。少年犯罪者は一般的に、別棟であるが大人と同じ刑務所に収容されている。刑務所に入っている少年は、大

人の囚人と同じ過酷な条件、裁判の遅滞および虐待にさらされている。現地の非政府組織は、年末現在で 3,000 人の少年が刑務所にいたと推定している。少年犯罪者は、刑務所に入れられる代わりに、成人年齢に達するまでカラチとバハーワルプールにある 2 つの少年院の 1 つに送られることがある。報告によると、これら少年院でも虐待と拷問が行われている。栄養と教育は不十分である。家族構成員は、子供を訪問し、または子供に食べ物を持っていくために賄賂を支払うことを強制される。報告によると施設の職員は、少年院に入れられている少年たちに薬物を売っているという。

- 6.170 アムネスティ・インターナショナルが 2005 年 6 月に出版した「Death Penalty News」は、「児童犯罪人の死刑執行を禁止している少年裁判所制度命令をラホール高等法院が 2004 年 12 月に無効としたことに対する上訴は現在、パキスタン最高法院に係属している（2004 年 12 月の Death Penalty News を参照のこと）。高等法院の判断は、最高法院が決定を下すまで停止されている」。

**(刑務所および刑務所の状況に関する 5 項も参照のこと)**

- 6.171 2005 年 2 月 28 日に発表された米 국무省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「政府は、法律とプログラムを通じて児童の権利と福祉に対して強いコミットメントを示していない。義務教育に関する連邦法は存在しない。公的教育は無料である。しかし、教科書、教材および制服について費用が請求される。とりわけ初等教育からあとの公立学校は、多くの農村地帯で利用することができず、親は並列の私立イスラム学校(マドラサ)制度を利用する結果となっている。都市部では多くの親は、公立学校制度によって提供されている施設の不足および劣悪な教育の質のため、子供を私立学校に通わせている。・・・大多数のマドラサでは、学生は合理的に十分な扱いを受けている。しかし、新聞報道は、児童が不法に監禁され、不健康な状態で管理され、かつ身体的または性的に虐待されているマドラサがあると述べている」。

**(教育制度に関する 5 項のサブセクションも参照のこと)**

- 6.172 USSD 2004 は、次のように報告している。

「児童の虐待は、広範に及んでいる。児童の権利のために活動している NGO によると、虐待は家庭内で最も普通に行われている。農村地帯では、貧乏な親は子供を奴隷労働者として売り ([USSD 2004 の] 6.d. を参照のこと)、時には娘を地主にレイプさせるために売ることもある。

人身売買と商業性的搾取が問題となっている（[USSD 2004 の] 5 項、人身売買を参照のこと）。

児童労働は、深刻な問題である（[USSD 2004 の] 6.d.を参照のこと）。

Sahil と Rozan といった非政府組織は、児童労働、児童の性的虐待および児童人身売買に関して活動している。非政府組織は、被害者に対する相談・医療サービスの提供およびこれらの問題の認識向上で重要な役割を果たしている。」

6.173 USSD 2004 はまた、次のように述べている。

「政府は、職場での搾取から児童を保護するための法律を採択し、またそのための政策を発表した。しかし、児童労働法の執行は手ぬるく、児童労働は深刻な問題である。労働省は、35 種類の危険児童労働を特定した。これらには、とりわけ街頭販売、手術用機器の製造、深海魚捕り、皮加工、レンガ製造およびじゅうたん織りが含まれる。農業と家内作業において児童労働は、普通に行われている。

強制労働、奴隷労働、性的搾取および児童人身売買が行われている（[USSD 2004 の] 5 項を参照のこと）。」

6.174 USSD 2004 はさらに、次のように述べている。

「児童雇用法は、工場、鉱山およびその他の危険職業で 14 歳未満の児童の雇用を禁止し、児童の労働条件を定めている。すなわち、児童は超過勤務をすること、または夜間働くことを許可されていない。しかし、大部分の地区で児童労働検査官が少なく、また検察官がほとんど訓練を受けていないことがしばしばあり、人的・物的資源が不十分であり、また検査官は汚職に誘惑されやすい。法律上、検査官は大部分の児童労働が行われている従業員が 10 人未満の施設を検査する必要はない。児童労働法の違反に対して数百件の有罪判決が言い渡されているが、裁判所によって科せられる罰金の低さ - NWFP（北西辺境州）における平均 6 ドル（364 ルピー）からバルチスタン州での平均 121 ドル（7,280 ルピー）まで多岐にわたる - は、十分な抑止力になっていない。児童雇用法は、最高 333 ドル（2 万ルピー）までの罰金を認めている。児童労働法に違反していると判決を下された者に対し処罰が科せられないことがしばしばある。」

6.175 USSD 2004 の報告によると、状況は次のとおりである。

「国際労働機関 - 児童労働撲滅国際プログラム（ILO-IPEC）は、じゅうたん織り、

手術用機器、くず拾いおよび深海魚捕りの業界でプログラムを継続しており、最悪形態児童労働撲滅時限プログラムを発足させた。産業および政府と協力し、ILO-IPEC はこれらの産業を離職する過渡期の児童に対して監視、教育機会、社会復帰および家族構成員の就職を組み合わせた計画を適用している。サッカーボール製造産業での児童労働を撲滅するための ILO-IPEC の計画は完了し、成功であったと見なされている。」

6.176 USSD 2004 はまた、「憲法と法律は、強制労働と債務労働（児童によるものを含む）を禁止している。しかし、政府はこれらの禁止を実効的に執行していない。債務労働制度（廃止）法（BLAA）は、債務労働を不法とし、既存のすべての奴隷債務を取り消し、かつこれらの債務の回収訴訟を禁止している。BLAA は、児童による債務労働を最高 5 年の懲役と最高 833 ドル（5 万ルピー）の罰金に処すことができるとしている」と述べている。

6.177 USSD 2004 は、「農村地帯の女性と子供は、商業性的搾取と労働のために都会に売られている。ある場合には、家族はこれらの被害者を奴隷として売り込み、また他の場合には、女性と子供は誘拐されている」と述べている。

#### （人身売買に関する 6.A 項のサブセクションも参照のこと）

6.178 パキスタンに関する 2005 Freedom House 報告書は、「児童労働法の執行は、引き続き不十分である。最近の調査は、パキスタンには少なくとも 800 万人の児童労働者がいることを示している」と述べている。

#### （就業権に関する 6.A 項のサブセクションも参照のこと）

6.179 2005 年 2 月 28 日に発表された米務省 Report 2004（USSD）は、「児童のヘルスケアサービスは、極めて不十分である。国立児童ヘルスケア研究所によると、出生から 5 歳までの死亡の 70% 超は、下痢や栄養失調といった容易に予防可能な病気が原因である。男子と女子は、政府の施設を平等に利用できるが、家族は男子の治療のほうを優先する傾向がある。」

### 保育の手配

6.180 「Women's e-News」ウェブサイトで発表された 2004 年 10 月 17 日付けの記事は、次のように報告している。

「パキスタンでは女の赤ん坊はの多くは、見捨てられており、見捨てられた子のた

めの屋外『ゆりかごプログラム』は、ようやく損失を食い止めている状態である。ソーシャルワーカーは、問題は女の子を金銭債務と見なす親 - しばしば中産階級 - にあることを突き止めている。・・・パキスタンで毎年見捨てられている子の数に関する調査を入手することはできないが、Edhi [Edhi 財団] の職員は財団の『Jhoola ベイビー』(ゆりかごベイビー) プログラムを通じて 1 年間に平均 1,500 人の赤ん坊の取り戻しに携わっている。財団は、さらに数千人の赤ん坊が発見されていないことを憂慮している。取り戻された赤ん坊のうち、圧倒的多数 - 80% は女の子である。・・・Abdul Sattar Edhi 氏が Edhi 財団 - 南アジア最大の先住民族民間ソーシャルサービス・ネットワーク - を発足させてから 20 年後の 1970 年に、同氏はカラチを本拠とする自分のセンターの 1 つに最初のゆりかごを置いた。現在、パキスタン全土に 315 個のゆりかごが置かれており、『ゆりかごベイビー』プログラムは、1 年間に平均 650 人の捨て子を救っている。・・・捨て子は健康証明書を受け取ったあと、養子に出される。1970 年以降、1 万 5,000 人のゆりかごベイビーが養家に斡旋されている。養子にならない捨て子 - 約 40% - は、財団の保護のもとに置かれ、子が 18 歳になるまで Edhi 氏自身が法定後見人になっている。」

- 6.181 SOS Children's Villages のウェブサイトのパキスタンに関するページ(2005 年 8 月 31 日アクセス)は、同慈善団体はパキスタン(ラホール、ドディアル、ラワルピンディ、ファイサラバード、カラチ、サルゴダおよびムルタン)に 7 つのコミュニティ有し、また必要とする人々に授業、医療サービスおよび職業訓練を行う 2 つのコミュニティがムザファルバードとシアールコトで建設中であると報告している。

## 同性愛

- 6.182 2005 年 2 月 28 日に発表された米 국무省 Report 2004 (USSD) は、「同性愛者の性交は、刑事犯である。しかし、起訴されることはまれである。同性愛者は、自分の性的指向を公に明かすことはしない。性的指向に基づいて 2004 年に差別があったという主張はなされていない。HIV/AIDS にかかっている者は、露骨な社会的差別を受けている。政府は、教育・予防キャンペーンを行っているが、キャンペーンは被害者を保護するのにほとんど役立っていない」と報告している。

- 6.183 カダナ移民・難民委員会の 2004 年 7 月 27 日付けの報告書は、次のように述べている。

「パキスタンの Hindustan Times 紙に掲載された記事によると、男性同性愛者の結婚は違法であり、同性愛行為を行っているのが見つかった者に対し石打ちによる死刑が刑罰として定められている(2004 年 7 月 2 日。なお、University of Florida 2003 も参照のこと)。同様に、Boston Globe 紙は、パキスタンで同性愛は鞭打ち、懲役また

は死刑を伴う犯罪であるが、パキスタンの最近の歴史で同性間性交により死刑を執行された者はいない。」

パキスタンに住むある同性愛者は、同性愛は「異常と見なされています。同性愛は何か恥ずべきことと見られています。嫌悪されるべきものと見られています」と述べている（Hindustan Times 紙、2004年7月2日号）。2004年5月26日と27日にアイルランドのダブリンで開催された第9回 European Country of Origin Information Seminar におけるプレゼンテーションで、イスラマバードに駐在する国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）代表は、パキスタンで同性愛者に対して社会的汚名が着せられ、同性愛者は社会によって『のけ者』として扱われていると述べた。

Boston Globe 紙は、取材のためにインタビューされた大部分の者は、同性愛者であるにもかかわらず、自分が同性愛者であることを明かさず、また同性愛はイスラム教に反するために引き続き違法であるべきであると信じている。」

6.184 上記の報告書はまた、次のように述べている。

「都市部の人々や教養のある人々の間で同性愛に対する社会的態度は、同性愛を以前に比較して受け入れているようであるが、パキスタンの保守的な人々や宗教関係者は、同性愛を『異常でかつ宗教上の罪』と見なしている（Hindustan Times 紙、2004年7月2日号。また、Boston Globe 紙、2004年7月11号も参照のこと）。したがって、大部分の同性愛者は、異性との結婚という文化的要件を守り、子供をもうけている（Hindustan Times 紙、2004年7月2日号。Boston Globe 紙、2004年7月11日号）。同性愛者の中には異性と結婚して、当該異性との間に子供がいるにもかかわらず、同性愛関係を続けている者がいる（Hindustan Times 紙、2004年7月2日号）。同様に、Boston Globe 紙は、同性愛は『伝統的結婚を脅かさない限り、・・・暗黙裡に受け入れられている』と報じている。」

男性同士の性的関係は、パキスタンでとりわけ少年と大人の間で普通となっている（Boston Globe 紙、2004年7月11日号）。これら少年の多くはその後、男娼になる（上記新聞）。Boston Globe 紙は、パキスタンの大部分の地域で少年を性的に誘惑するのは簡単であると述べている（上記新聞）。」

6.185 上記の報告書はさらに、次のように報告している。

「同性愛は、『パキスタンで宗教的に一番保守的な地域の1つ』である北西辺境州（NWFP）で静かにではあるが、最も容認されている（上記新聞）」。NWFPの人口の過半数を占めるパシュトゥーン族のコミュニティでは、「若くて魅力的なボーイフ

レンドがいることは、裕福な中年男性にとって名声と富の象徴である。実際、パシユトゥーン族の男性は、Hujra（妻がたまにしか入らない男性用部屋）に少年を置いておくことがしばしばある。この慣行は、普通に行われているため、Larke（少年）、warkai、alec といった異なる方言でボーイフレンドを意味するさまざまなスラングがある（上記新聞）。

このような関係において、一連の厳格な不文律は、少年（去っていかないことまたは結婚しないことに同意する）が受け身のパートナーであることを要求している（上記新聞）。これと引き換えに、少年は食事と衣服を与えられる。少年が関係を止めて結婚することを決定した場合、少年は『きずものになったと見なされ、のけ者として通りをさまようことになる・・・』（上記新聞）。

男性間の性的関係は、マドラサ（男子用宗教学校）でも普通に見られる。マドラサでは『状況は、刑務所の在監者に見られるのと似ており、セックスはだいたいにおいて行われており、好みというよりも支配的である（上記新聞）』。

## 6.C 人権 - その他の問題

### アフガン難民

6.186 2005年2月28日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「法律は、1951年の難民の地位に関する条約および議定書に従って、庇護または難民の地位を付与することを定めていない。しかし、政府は難民を保護する制度を設けている。政府は、送還、すなわち難民が迫害を受ける恐れのある国へ戻されないよう難民を保護している。1979年以降、政府は隣国アフガニスタンから来た数百万人もの難民に一時的保護を与えている。政府は、年末現在でパキスタンに320万人のアフガン難民がいると述べている。政府は、これらの難民を支援するため引き続き国連難民高等弁務官 (UNHCR) と緊密に協力している。政府は [2004年] に38万4,032人のアフガン難民の自発的帰国に UNHCR と協力した。」

6.187 USSD 2004 はまた、次のように報告している。

「警察は、アフガン難民に賄賂を要求する場合ある。情報機関がアルカイダの捜査の際に難民に嫌がらせをしたという信頼できる報告があった。NGOの仕事を受け入れた複数の女性難民は、自分たちのコミュニティでタリバン支持者から嫌がらせを受けたと報告している。難民は、経済競争が激しくなることを恨み、また犯罪率が高いことを難民のせいにする地元コミュニティから社会的差別と虐待を受けている。独身女性、女性が家長をしている家族および通りで働く少年は、とりわけ虐



待を受けやすい。[ 2004 年 ] 11 月、アフガン難民は、Save the Children によって運営されている Girdi Jungle 難民キャンプの診療所の外で冒涇されたコーランが見つかったことで診療所を襲撃した。Save the Children は、政府が治安を強化するまでキャンプ内での活動を一時的に停止している。」

6.188 2005 年 8 月 31 日付けの UNHCR の News Story は、次のように報告している。

「アフガニスタン政府、パキスタン政府および国連難民機関は、三者間協定の期間延長に合意した。この三者間協定は、アフガニスタン人の帰国について規定し、パキスタンでまだ生活しているアフガニスタン人に対して、現行の UNHCR 帰国プログラムに基づいて帰国するための余裕を与えている。」

2006 年 3 月に満了するはずであった三者間協定は、各政府と UNHCR の承認を条件に現行の内容で 2006 年 12 月まで延長されることになった。この決定は、月曜日[ 2005 年 8 月 29 日 ] に三者間委員会（三者の代表から構成）の会合で下された。この会合は、2003 年 3 月に三者間協定が調印されてから 8 回目の会合である。」

6.189 News Story はさらに、次のように述べている。

「アフガン国境近くにある連邦管理部族地域（FATA）の難民キャンプを閉鎖するというパキスタン政府の決定についても協議された。パキスタンは、FATA にあるすべての難民キャンプが治安上の理由で 8 月 31 日に閉鎖される旨を宣言した。キャンプ居住者は、UNHCR の自発的帰国プログラムに基づいて帰国するか、またはパキスタンにある現存のキャンプに移転する選択肢を与えられる。・・・FATA の難民キャンプから帰国する者の大部分は、アフガニスタン東部の Khost 州、Nangarhar 州および Paktya 州のほか、中部のカブール州へ向かうことになっている。」

6.190 UNHCR の News Story はまた、次のように述べている。

「2006 年にパキスタンに住んでいるすべてのアフガニスタン人を登録するというパキスタン政府の計画は、アフガニスタン政府と UNHCR によって支持され、すべての当事者は今後数週間にわたり登録実施に関する提案を煮詰めることに合意した。」

UNHCR の支援を受けてパキスタン政府によって今年初めに行われた人口調査により、300 万人を超えるアフガニスタン人がパキスタンに住んでいることが分かった。約 28 万人のアフガニスタン人が今年パキスタンから帰国した結果、2002 年初め以降パキスタンからアフガニスタンに戻ったアフガニスタン人の人数は 250 万人を超えた。」

## 「自由」カシミール

### まえがき

6.191 2005年4月7日に発表されたカシミール紛争に関するBBCニュース「質疑応答」は、次のように報告している。

「カシミール地方は、インドとパキスタンが1947年8月にイギリスから独立する前から激しく争われていた。1947年インド独立法によって提案された分離計画に基づいて、カシミールは自由にインドまたはパキスタンに帰属することができた。マハーラージャ(藩王)のHari Singhは、独立していたかったが、軍事援助および約束された国民投票と引き換えに結局インドに帰属することを決定し、インド政府に重要な権限を譲り渡した。それ以降、カシミール地方は三度にわたるインド・パキスタン戦争のうち二度の発火点となった。最初のインド・パキスタン戦争は1947年から1948年まで続き、また2回目のインド・パキスタン戦争は1965年に起きた。1999年に、インドはパキスタン支援の軍隊と短期間であったが激しい戦いを繰り広げた。この軍隊は、Kargil地方のインド支配地域に侵入した。カシミール地方に対するインドとパキスタンの対立する主張に加え、1989年以降のインドのカシミール支配に対して分離主義者の運動が高まり、しばしば激しい運動が行われた。」

6.192 上記の報告は、次のように述べている。

「イスラム教徒がカシミールの多数派であることを理由に、イスラマバードはカシミールは、1947年にパキスタンの一部となるべきであったと述べている。パキスタンはまた、問題に関する国連の過半数の決議を踏まえ、カシミール人は自分たちの将来に関する国民投票を行うことを許されるべきであると主張している。しかし、デリーは問題に関する国際的議論を望まず、1972年のシムラ協定は二国間協議による解決を規定していると主張している。インドは、マハーラージャのHari Singhによって1947年10月に署名された帰属文書を指摘している。インドとパキスタンの両方は、カシミールが独立国となる選択肢を拒否している。」

6.193 上記の報告はまた、次のように述べている。

「カシミールについて相反する主張を続けている複数のグループが存在する。すべてが武装グループではないが、1989年にイスラム教徒の暴動が始まって以降、武装分離主義者の数は、数百から数千に増えた。最も勢力のあるのは、親パキスタンのHizbul Mujahideenである。イスラマバードは、Hizbul Mujahideenおよびその他の組織に兵站・物資援助を行っていることを否定している。ジャム・カシミール解放戦線(JKLF)は、最大の親独立グループであるが、その影響は衰えたと考えられている。その他のグループは、カシミールにおけるインドのプレゼンスを終わらせるために平穏に運動しているAll-Party Hurriyat (Freedom) Conferenceに参加している。」

## 管理ライン

- 6.194 カシミール紛争に関する 2005 年 4 月 7 日の BBC の報道は、次のように述べている。  
「第一次カシミール紛争の終結を受けて、休戦ラインとして 1949 年 1 月に境界線が当初引かれた。1972 年 7 月、第二次紛争のあと、初期の国境に若干の変更を加えて、シムラ協定の条項に基づいて管理ライン (LoC) が再度引かれた。LoC は、標高約 5,000 メートルの山岳地帯を通っている。状況は極めて厳しいため、散発的な小競り合いよりも極寒のほうが多くの命を奪っている。LoC の北側では、シアチェン氷河 (標高 6,000 メートルを超える) - 地球上で最も高度のある戦場 - において 1984 年以降、対立する軍隊が塹壕で陣地を固めている。LoC は、カシミールをほぼ 2 分の 1 ずつ分離している。すなわち、東と南のインド管理カシミール (人口約 900 万人) (インドが支配するジャム・カシミール州に属する) および北と西のパキスタン管理カシミール (人口約 300 万人) (パキスタンによって『自由』カシミールと呼ばれる) である。中国もカシミールのわずか地域を支配している。」
- 6.195 上記の報道によると、「国連は、1949 年以降、紛争地域にプレゼンスを維持している。LoC は現在、インドとパキスタンの国連軍事監視団 (UNMOGIP) によって監視されている。国連によると、監視団の任務は、『1971 年の休戦の厳格な遵守に関する進展を可能な限り監視する』ことである。」

## 現状

- 6.196 Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、パキスタンは管理ライン - LoC - (インド管理カシミールとパキスタン管理カシミールを分離する非公式の境界) に沿って一方的に休戦する旨を 2003 年 11 月に宣言したと報告している。Europa はまた、「2003 年 12 月、両国が航空機の上空通過の復活、着陸権およびラホールとニューデリー間の鉄道運行に関して合意に達した結果、建設的対話の見込みが高まった」と報告している。
- 6.197 2004 年 1 月の Keesing's Record of World Events (キーシング世界事件簿) は、画期的なサミット - 南アジア地域協力連合 (SAARC) - が 1 月初めに両国の指導者間で行われたが、パキスタンの軍事分離主義グループは、『武装闘争』は継続されると主張していると述べている。
- 6.198 パキスタンに関する外務省のカントリー・プロフィール (2005 年 4 月 22 日レビュー) は、次のように報告している。  
「2005 年 4 月 7 日、パキスタン管理カシミールのムザファラバードと管理ラインの

インド側にあるスリナガル間に 1947 年以来初めてのバス運行が開始した。

ムシャラフ大統領は、マンモハン・シン首相と会談するため、および両国間におけるクリケット試合（1日）を観戦するために 2005 年 4 月 16 日から 18 日までニューデリーを訪問した。両首脳の間で共同声明は、『両国は、和平プロセスはもはや後戻りできないことを確認した』と述べている。

- 6.199 2005 年 8 月 29 日の BBC のニュース報道は、「インドとパキスタンは、薬物取引、テロおよび国境の両側の刑務所で留置されている囚人の運命に関して協議を開始した。この協議は、ほぼ 2 年前に始まった対話プロセスの一環である。両国の内務大臣は、デリーで行われている協議を主導している。・・・今週末、両国外務省の上級幹部がイスラマバードで会合を開くことになっている」と述べている。

- 6.200 2005 年 8 月 31 日、BBC は次のように報じた。

「インドのマンモハン・シン首相は、分離地域におけるインドの支配に反対しているカシミールの分離主義者と初めての会談を行うことになった。All-Party Hurriyat Conference (APHC) の穏健派との会談は、9 月 5 日にデリーで行われる。この穏健派は、旧民族主義政府と 2 回協議を行った。APHC の強硬派は、対話に反対している。カシミールでの 14 年間にわたる暴動で 4 万人を超える人々が死亡した。APHC との会談は、昨年 5 月にシン氏が首相に選ばれて以来、初めての会談である。APHC およびシン氏の国民会議派が主導する政府との間の対話は、分離主義者がインド政府によって決められた条件に反対した昨年 8 月に行き詰まった。6 月、同盟の Mirwaiz Umar Farooq 議長は、協議を再開したいという自派の希望をデリーに伝えた。・・・障害となっているのは、国民会議派がカシミールの将来を巡ってインドおよびパキスタンと三者間協議の当事者となることを希望しているが、インドがこれに同意していないことである。6 月に穏健派の指導者がペルベズ・ムシャラフ大統領およびその他の指導者と会談するために画期的なパキスタン訪問を行った。この訪問は、分離主義者によって成功と評せられたが、インドの有力野党 Bharatiya Janata Party (人民党) によって非難された。・・・カシミール問題は、シン氏が今年ニューヨークで国連総会を傍観するムシャラフ大統領と会談する際に重要な議題となりそうである。」

## 北部地域

- 6.201 2005 年 2 月 28 日に発表された米 국무省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「北部地域（ギルギットおよびバルティスタン）の居住者は、憲法の対象となっ

おらず、連邦議会に代表を出していない。任命公務員がこれらの地域を管理している。選出北部地域評議会が諮問的資格で職務を行っている。自由カシミール会議と政府のメンバーは、選挙に立候補する前にパキスタンへの忠誠を誓う必要がある。カシミールの政党の中には独立カシミールを主張し、したがって州選挙に立候補することを認められていない党もある」。

### 非政府組織の扱い

6.202 2005年2月28日に発表された米務省 Report 2004 (USSD) は、次のように述べている。

「さまざまな国内・国際人権グループが一般的に政府の制限を受けずに活動し、人権問題を調査し、調査結果を発表している。これらの人権グループは、登録される必要があるが、この要件は一般的に強制されていない。政府担当官はしばしば、人権グループに協力的で、人権グループの意見に答えてくれる。人権グループは一般的に、警察署や刑務所を十分に訪問できると報告している。HRCP [パキスタン人権委員会] は、2004年も引き続き人権侵害を調査し、人権問題に関する討論を後援した。

国際監視委員は、パキスタンを訪問し自由に旅行することを許可されている。政府は一般的に、海外の政府人権団体に協力的である。ICRC [国際赤十字委員会] は、パキスタンに代表団を送っている」。

6.203 パキスタンに関する 2005 Freedom House report によると、「近年、軍事政権は一般的に、非政府組織 (NGO) の仕事を許容しているが、イスラム原理主義者は、農村地帯で活動している著名な人権擁護者や女性 NGO 活動家を殺すと脅している」。

### 附属書 A:出来事の年代記

( 別途情報源が示されていない限り、BBC の「タイムライン - パキスタン、主要な出来事の年代記」による )

1906年	インド・イスラム教過激派のフォーラムとしてイスラム連盟結成。
1940年	イスラム連盟、インド・イスラム教徒のための別個の国の考えを支持。
1947年	東パキスタンと西パキスタンのイスラム国家がイギリス支配の終りにインドから分離誕生。地域抗争の拡大で数十万人が死亡し、数百万人が家を失う。
1948年	パキスタンの初代総督 Muhammed Ali Jinnah 死去。カシミール地方の紛争を巡りインドとの第一次紛争が勃発。
1951年	Jinnah の後継者 Liaquat Ali Khan 暗殺される。
1956年	憲法がパキスタンをイスラム共和国と宣言。
1958年	戒厳令が宣言され、Ayyub Khan 将軍が支配権を握る。
1960年	Ayyub Khan 将軍が大統領となる。
1965年	カシミールを巡りインドとの第二次紛争勃発。
1969年	Ayyub Khan 将軍が辞任し、Yahya Khan 将軍が支配権を握る。
1970年	離脱したアワミ連盟が東パキスタン総選挙で勝利し、西パキスタンとの緊張が高まる。
1971年	東パキスタンが分離を試み、内戦となる。インドが東パキスタンを支援して介入する。東パキスタンは独立してバングラデシュとなる。
1972年	インドとのシムラ和平協定がカシミールに新たな国境線を引く。
1973年	Zulfiqar Ali Bhutto が首相となる。
1977年	Zulfiqar Ali Bhutto のパキスタン人民党 ( PPP ) による不正投票の主張を巡り暴動が起きる。Zia ul-Haq 将軍が軍事クーデターを行う。
1978年	Zia 将軍が大統領となる。
1979年	Zulfiqar Ali Bhutto が絞首刑となる。
1980年	ソビエトのアフガニスタン侵攻を受け、米国がパキスタンに軍事援助を約束。
1985年	戒厳令と政党の活動禁止が解かれる。
1986年	Zulfiqar Ali Bhutto の娘 Benazir が亡命から戻り、新たな選挙運動で PPP ( パキスタン人民党 ) を率いる。
1988年	8月:米国大使で、パキスタン軍トップの Zia 将軍が原因不明の航空事故で死亡。 11月:Benazir Bhutto の PPP が総選挙に勝利。
1990年	Benazir Bhutto が無能力と汚職により首相を解任。
1991年	Nawaz Sharif 首相が経済自由化計画を始める。イスラム法が正式に法典に組み入れられる。

1992年	政府が Mohajir Quami 運動のウルドゥー語を話す支持者による暴力を撲滅するための運動を開始。
1993年	Khan 大統領と Sharif 首相が軍からの圧力で辞任。総選挙の結果、Benazir Bhutto が政権を奪還。
1996年	Leghari 大統領が汚職事件をめぐり Bhutto 政権を解散。
1997年	Nawaz Sharif のパキスタン・イスラム連盟が選挙に勝利し、同氏が首相に復帰。
1998年	インドによる幾度かの核実験を受け、パキスタンが核実験を実施。
1999年	4月:Benazir Bhutto と夫が汚職で有罪となり、懲役刑を言い渡される。Benazir は国外に亡命。 5月:Kargil 紛争。パキスタン支援軍隊がインド支配カシミールの Kargil 周辺の氷結山岳地帯でインド軍と衝突。両軍に 1,000 人を超える死者が出る。 10月:Nawaz Sharif 首相がペルベズ・ムシャラフ将軍によって率いられた軍事クーデターで倒される。クーデターが多方面から非難される中、パキスタンは連邦から脱退させられる。
2000年	4月:Nawaz Sharif がハイジャックとテロ行為の罪で終身刑を言い渡される。 12月:Nawaz Sharif が軍当局によって減刑され、サウジアラビアに亡命。
2001年	6月2日:ペルベズ・ムシャラフ将軍が自らを大統領に任命し、陸軍参謀総長にとどまる。同将軍は、名目上の大統領 Rafiq Tara の後を継いだ。Rafiq Tara は、自分を選んだ議会が解散したあと、早い段階で地位を退いていた。 7月:ムシャラフ大統領は、2年ぶりで行われたパキスタンとインドの首脳会談でインドの Atal Behari Vajpayee 首相と会う。会談は、カシミールを巡る意見の相違のため、進展なしに終り、共同声明も出されなかった。 9月:ムシャラフ大統領は、テロとの戦いで米国を支持し、アフガニスタンに対する攻撃を支援。米国は、パキスタンが 1988 年に行った核実験のあと科した制裁のいくつかを解除したが、ムシャラフ将軍のクーデターのあと実施した制裁は存続。 10月:カシミールの分離管理ライン沿いにおける最も激しい銃撃戦でほぼ 1 年にわたりインドがパキスタンの駐屯部隊を攻撃。 12月:ニューデリーの議会への自爆テロで非難されている 2 つのカシミール過激派グループに対して措置を取るよう強制するため、インドがパキスタンに制裁を科す。パキスタンは同様の制裁で報復。 12月:開戦の恐れが高まるなか、インドとパキスタンは共同国境線沿いに大部隊を配備。
2002年	1月:ムシャラフ大統領が 5 つ過激派グループ (Lashkar-e-Taiba, Jaish-e-Muhammad, Sipah-e-Sahaba Pakistan, Tehrik-e-Jafria Pakistan および Tahrik-e-Nifaz-e-Shariat-e-Muhammadi ) の活動を禁止。

	<p>1月:ムシャラフ大統領が3年間にわたる軍事支配を終わらせるため、2002年10月に選挙を実施する旨を発表。</p> <p>4月:ムシャラフ大統領が、違憲と非難され、また数々の不備を指摘された国民投票でさらに5年の任期を獲得。</p> <p>5月:11人のフランス人技術者を含む14人がカラチでバスへの自爆テロで死亡。翌月、カラチの米国領事館の外で起きた自爆テロで12人が死亡。</p> <p>5月:パキスタンが核弾頭を搭載可能な中距離空対空ミサイル Ghauri3 発の実験を行う。ムシャラフ大統領は、パキスタンは戦争を望まないが、攻撃された場合には全力で報復する用意がある旨を国民に伝える。</p> <p>6月:イギリスとアメリカは、戦争を回避するために外交攻勢を維持し、自国民に対しインドとパキスタンを離れるよう要請。</p> <p>8月:ムシャラフ大統領が選出議会を解散する権限を含め、自分に対して新たな包括的権利を与える。野党は永続的な独裁権の維持だとしてムシャラフ大統領を非難。</p> <p>10月:1999年の軍事クーデター以来、初めての総選挙の結果、大所帯の議会が誕生。各党は連立工作にしのぎを削る。宗教政党は、予想以上に健闘。</p> <p>11月:Mir Zafarullah Jamali氏が国民議会によって首相に選任される。同氏は、1999年の軍事クーデター以来、初めての民間人首相であり、またムシャラフ将軍に近い党のメンバーである。</p>
2003年	<p>2月:上院選挙:与党が上院選挙で大多数の議席を獲得。この選挙は、ムシャラフ大統領が民主主義への移行と呼んでいるプロセスの最終段階と言われている。</p> <p>6月:北西辺境州が投票によりイスラム法を導入。</p> <p>11月:パキスタンがカシミール休戦を宣言し、インドにより直ちに受け入れられる。</p> <p>12月:パキスタンとインドは、2年にわたる禁止のあと、2004年初めから直接航空便を再開することと、相手国の航空機が自国上空を通過することに同意。</p> <p>12月:大統領を狙った2件の暗殺未遂事件が起きる。「過激派」の仕業であると言われている。</p>
2004年	<p>1月:インドとパキスタン間で和平交渉が行われる。</p> <p>2月:著名な核科学者 Abdul Qadeer Khan 博士が核兵器の秘密を漏らしたことを認める。技術がリビア、北朝鮮およびイランに渡ったと言われている。</p> <p>4月:議会は、軍主導の国家安全保障会議の設置を承認。この動きは、文民問題の軍の役割を制度化した。</p> <p>5月:パキスタンが連邦への再加盟を認められる。</p> <p>宗派間抗争がカラチで起きる。スンニ派の上級聖職者が射殺される。シーア派のモスクへの爆弾攻撃で16人が死亡し、40人が負傷。</p>



	<p>6月:検問所への攻撃のあと、アルカイダ過激派と見られる者およびその支持者に対する軍事攻撃がアフガニスタン国境近くで行われる。3月に行われた攻撃で120以上が死亡。</p> <p>8月:Shaukat Azizが首相として宣誓就任する。7月に同首相は、明らかな暗殺から無傷で逃れる。</p> <p>12月:ムシャラフ大統領は、陸軍参謀象徴としてとどまる旨を発表。同大統領は以前、陸軍参謀総長を辞任すると約束していた。</p>
2005年	<p>1月:バルチスタンの部族過激派がパキスタン最大の天然ガス田の施設を攻撃し、主要プラントの閉鎖を余儀なくさせる。</p> <p>4月7日:60年ぶりのバス運行がパキスタン管理カシミールのムザファラバードとインド支配カシミールのシュリナガル間で始まる。</p> <p>7月:シンド州で3台の客車の衝突で130人超が死亡し、数百人が負傷。宗教学校とモスクを含む施設で200人を超えるイスラム過激派が拘留される。この作戦は、ロンドンでの爆破事件を受けて行われたものである。爆破犯人のうち3人は2004年にパキスタンに来たことがある。</p> <p>8月:パキスタンが核弾頭搭載可能な最初の巡航ミサイルの発射実験を行う。</p>

## 附属書 B:政党および過激派グループ

**ALL PAKISTAN MOHAJIR STUDENTS ORGANISATION ( MUTTAHIDA QUAMI MOVEMENT を参照のこと)**

### **ALL PARTIES HURRIYAT (FREEDOM) CONFERENCE (APHC)**

2005年6月14日のBBCの報道によると、インド管理カシミールにおける主要な分離主義同盟である。この党は現在、穏健派と強硬派に分離しており、前者は Mirwaiz Umar Farooq 氏に率いられ、後者は Syed Ali Geelani 氏によって率いられている。ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイトは、スリナガルに本部を置く APHC は、カシミール紛争の平和的解決を見出すにあたり非過激派グループを代表していると表明している。

### **AWAMI NATIONAL PARTY (ANP) (PEOPLE'S NATIONAL PARTY)**

国民民主党、Awami Tehrik (人民運動) および Mazdoor Kissan (労働者・農民党) の合同により 1986年結成。連邦主義・社会主義。党首は Khan Abdul Wali Khan。

### **BALUCHISTAN NATIONAL MOVEMENT**

クエッタに本部を置く。党首は Abdul Hayai Baloch 博士。

### **HARKAT-UL-ANSAR (HARAKAT-UL-MUJAHIDEEN-HuM を参照のこと)**

#### **HARAKAT-UL-MUJAHIDEEN (HuM) (聖なる戦士の運動) (Jamiat-ul-Ansar も参照のこと)**

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイトは、HuM は 1985年に結成されたと述べ、また次のように報告している。

「Harakat-ul-Mujahideen (HuM;聖なる戦士の運動)は、かつて Harakat-ul- Ansar (HuA;時には Harkat al-Ansar; Ansar は、「支援者」を意味するアラビア語)として知られていたが、名称を巡って混乱がある。これは一部にはグループ内で常に分裂が起き、短命の派閥が生じるためであり、また特定過激派団体とその支持者の活動を禁止し、または無力化しよとする政府を惑わせようとして名称を変更するためである。・・・HuM は、離脱した Harakat ul-Jihad-ul-Islami (HUJI)のメンバーによってパキスタン/アフガニスタンで結成された。その後、2つのグループは 1993年10月に再合併し、HuA という名称にした。米国政府が 1997年に HuA をテロ組織と名指したため、HuA は名称を HuM に戻した。組織の残りのメンバーは、それぞれ HuM、HuA または HUJI に属していると言われている。

米国政府は 2001年9月24日、HuM と HuA を国外テロ組織に指定した。HUJI は、2004年4月30日の国務省の「その他のテロ組織」表に載っている。

2003年10月、パキスタン政府は、HuMと関連組織の事務所の閉鎖と活動の終結を命じた。HuMはJamiat-ul-Ansarの名称で活動を続けていると信じられている。使われているその他の名称は、al-Hadid、al-Hadithおよびal-Faran・・・Activeであるが、Jesh-e Mohammadi (JeM) (qv)がほとんど同じ目的を有する分派または隠れみの集団として結成された1999年以降は活動は大幅に減少している。・・・さまざまな人物がHuMの指導者として確認されている。Masood Azharは、グループの書記長であり、最も重要な軍事指揮官でかつ戦略家であると言われている。JeMを結成するためにMasood Azharが1999年にグループを離脱したことが、HuMとHuAの脱主流に寄与した。Fazlur Rahman Khalilは、パキスタン全体を指揮する司令官であると考えられており、HuMのAmirという公式の肩書きを有する。米國務省は、Maulana Sadaatullah KhanをHuMの指導者と特定しており、おそらく彼がIAK [インド管理カシミール]における最高司令官である。

HuMは、訓練、活動および財務を扱う別の支部を有する。グループの指揮系統は、経験のある戦闘司令官の大部分をJesh-e Mohammadiに取られたため、1999年末以降、混乱している。

#### **HIZBUL MUJAHIDEEN (HM) (AKA HIZB-UL MUJAHIDEEN)**

ジェーン社のTerrorism and Insurgency Centreのウェブサイト - ジェーン社のTIC - は、HMはMaster Ahsan DarによってMohammad Abdullah Bangrooと共に1989年に結成されたと報告している。最初から(かつ省略して)Al Badrと呼ばれているHMは、現在も活動しているが、APHCのメンバーでない。2003年4月現在、HMは國務省の「その他のテロ組織」表に載っている。ジェーン社のTICは、次のように報告している。

「HMは、パキスタンのJamaat-e-Islami 政党の戦闘部隊であり、パキスタン管理カシミール(PAK)に本部を置き、活動組織はインドでジャム・カシミールとして知られるインド管理カシミール(IAK)にある。・・・1990年代末、HMは政府とJamaat-e-Islami間の緊張関係および過激派一般に対するムシャラフ大統領の不信感が増大した結果、パキスタン政府に対する影響力を失った。・・・HMは、IAKとPAKの合併を確立することと、地域をイスラム化された実体に変えることを目指している。後者の野心は、イスラマバードの指導者にあまり訴えところがなく、またIAKの大多数のカシミール人にも魅力がない。

Syed Salahuddin (またはSalauddin) 別名Maulvi Yousuf Shah [HMの指導者]は、PAKのムザファラバードに本拠を構えているが、パキスタン政府によって地域に入るのを正式に禁止されている。・・・HMの最高司令官Saif-ul-Islam(別名Ghulam Rasool KhanまたはEngineer Zaman)は、2003年4月にインド治安部隊の大規模作戦の際に殺害された。HMの司令官評議会の会合で、彼の後任にGhazi Nasiruddinが就任した。Nasiruddinが2004年1月に殺害さ

れたあと、後任に Ghazi Shahabuddin が就いた。2004 年 5 月 7 日、Ghazi Shahabuddin もインド軍によって殺害された。5 月 11 日、Ghazi Misbahuddin が新たな「最高司令官」に任命された旨が HM の「中央執行委員会」によって発表された。Misbahuddin の経歴については何も知られていない。

2004 年の年央現在、IAK（インド管理カシミール）にいた HM の経験ある上級司令官の大部分は、多くはインド軍によって、また一部は内部抗争に復讐しようとする離脱過激派によって殺害されるか、または無力化された。HM の指令系統に加えられている過酷な打撃は、最終段階にかかっており、HM の組織は引き続き危険であり、無差別攻撃を実行する能力はあるが、徐々に制圧されつつある。」

#### **ISLAMI TEHRIK-E-PAKISTAN (TJP) (TEHRIK-E-PAKITAN を参照のこと)**

#### **JAISH-E-MOHAMMAD (JESH-E-MOHAMMADI) (JeM) (JAMIAT-UL-FURQAN も参照のこと)**

2002 年 1 月にムシャラフ大統領によって活動を禁止された 5 つの過激派組織の 1 つである Jaish-e-Mohammad は、他の 5 つの組織と共にムシャラフ大統領によって 2003 年 11 月に **Khudam-ul-Islam** として活動を禁止された。

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、Jaish-e-Mohammad は、2000 年 3 月に正式に発足したが、創設者（Maulana Masood Azhar）がインドの刑務所から釈放されたのを受けて、その創設日は通常、1999 年 12 月とされている。ジェーン社の TIC は、Jaish-e-Mohammad は活動的で過激的なスンニ派グループであり、「Jesh-e-Mohammadi」（預言者モハンマドの軍隊:JeM）、または（そしてより普通に）「Jaish-e-Mohammad」、あるいは時には「Jaish-e-Mohammed-e-Tanzeem」として知られている。別の名前は、Khuddam-ul-Islam であり、Jaish-e-Mohammad はこの名前のもとで 2003 年 11 月にパキスタンで活動を禁止された。・・・2003 年 12 月 23 日、国務省は、「大統領命令第 13224 号に従い、Jaish-e-Mohammed の名称を訂正し、別名として Khuddam-ul-Islam、Khudamul Islam および Kuddam e Islami を追加する」と発表した。

ジェーン社の TIC はまた、次のように述べている。

「インドとパキスタンで活動を禁止されたほかに、このグループは 2004 年 10 月 19 日に発表された米国の国外テロ組織のリストに載っている。・・・JeM は、過激な親タリバングループである Jamiat-i-Ulema-i-Islam (JUI) と緊密な政治的関係を有している。・・・JeM は、Lashkar-e-Taibyya (LeT) (JeM が合同で活動を行なっている) および Lashkar-e-Jhangvi (LeJ) と同盟関係を結んでいる。このグループは、Harakat-ul-Mujahideen (HuM)、LeT、LeJ、

Hizb-ul-Mujahideen (HM)および Al Badar を含む United Jihad Council の一部である。

JeM はまた、JeM を中東、アジアおよびアフリカの多数のイスラム運動と接触させたタリバンおよびアルカイダのネットワークと密接な関係を有している。

JeM の指導者は、カラチに強力な地歩を築いている過激派スンニ組織 Sipah-e-Sahaba Pakistan (SSP)とも関係を有している。」

ジェーン社の TIC はさらに、次のように述べている。

「このグループの公然の主要目標は、インド管理カシミール（グループによってインド占領カシミールと称されている）をパキスタンと併合させることである。このグループは、パキスタンに過激派イスラム教国家を創設するという国内的アジェンダを持っている。その同盟メンバーのいくつかは、南アジアにイスラム教徒のカリフ統治区域を設け、インド亜大陸からヒンドゥー教徒を追い払うというより広い目標を支持している。グループは、パキスタンにおけるシーア派、キリスト教徒、ヒンドゥー教徒およびユダヤ教徒のプレゼンスに反対する過激ディオバンディ・スンニ派組織である。

Maulana Masood Azhar は、1948 年に Maulana Yusuf Binori によって創設された Binori モスクにある Jamiya Uloom-e-Islamic のマドラサを卒業した。このマドラサは、軍事教育と宗教教育を行うために、ISI によって選ばれたマドラサの 1 つである。・・・2000 年 5 月、Binori モスクの外で車に対する攻撃で Mohammad Yousuf Ludhianvi と運転手が殺害されたあと、グループの最高指導者としての Ludhianvi および最高司令官としての Azhar に JeM から弔辞が寄せられた。Ludhianvi はまた、Sipah-e-Sahaba Pakistan (SSP)の最高司令官として知られ、2 つの組織の間に緊密な関係がある。

JeM の正確な指揮系統は不明である。Maulana Masood Azhar は Amir のタイトルを保持しているが、2001 年 12 月にパキスタン当局による自分の逮捕が差し迫っていると警告され、副官、おそらく Osama Nazir を任命したと信じられている。Osama Nazir は、2004 年 11 月 18 日にファイサルバードで逮捕された。

グループは、指導者評議会を置いている。そのメンバーには次の著名な人物が含まれている。これらの大分は、HuM の旧指導者である。

Maulana Qari Mansoor Ahmed - 情報/広報

Maulana Abdul Jabbar - 軍

Maulana Sajjad Usman - 財務

Shan Nawaz Khan (Sajjid Jihadi または Gazi Baba) - ジャム・カシミール司令官

Maulana Mufti Mohammed Asghar - 司令官

#### メンバーおよび支援グループ

組織の結成後、HuM と戦っていた武装義勇兵の約 4 分の 3 は、JeM に寝返りを打ったと信じられている。大部分のメンバーは、パキスタン人および都市部に本拠を置くカシミール人であるが、いくらかのアラブ人とアフガニスタン人がいる。米国務省は、その武装部隊は数百人であると推測しているが、ゲリラ戦士は複数の組織に属することがあり、頻繁に忠誠を変えるため、正確な人数を確認するのは困難である。

#### **JAMAAT-E-ISLAMI PAKISTAN (JIP) (MUTTAHIDA MAJLIS-E-AMAL-MMA を参照のこと)**

1941 年結成。Maulana Maududi の教えを守りイスラム教秩序の確立を目指す。右翼、指導者は Amir Qazi Hussain Ahmad。

#### **JAMAAT-UD-DAWA (LASHKAR-E-TAIBA を参照のこと)**

カシミール人武装分離主義者グループ Lashkar-i-Taiba [ Toiba ][ Toyeba ] - LiT に代わる新しい組織であると考えられる者もいる。このグループは、活動禁止を免れたが、ムシャラフ大統領が 2003 年 11 月に 6 つの追加グループの活動を禁止した際に監視下に置かれた。

#### **JAMIAT-E-ULEMA-E-ISLAM (JUI) (MILLAT-E-ISLAMIA PAKISTAN および MUTTAHIDA MAJLIS-E-AMAL-MMA を参照のこと)**

1950 年結成。(スンニ派) イスラム教の教えに従う憲法の採択を支持している。JUI (宗教指導者イスラム党) は、親タリバン聖職者である Maulana Fazlur Rehman によって率いられている。同氏はまた、6 つの党からなる宗教連合 Muttahida Majlis-e-Amal の書記長でもある。

#### **JAMIAT-E-ULEMA-E-PAKISTAN (JUP) (MUTTAHIDA MAJLIS-E-AMAL-MMA を参照のこと)**

1948 年結成。進歩的 (スンニ派) イスラム教主義とパキスタンにおけるイスラム法の実施を支持。議長は Shah Farid-ul Haq。

#### **JAMIAT-UL-FURQAN (別称 TANZEEM-UL-FURQAN)**

Jaish-e-Mohammad の分派。この過激派イスラム教グループは、2003 年 11 月に活動を禁止された。

**JAMIAT-UL-ANSAR (HARKAT-UL-MUJAHIDEEN を参照のこと)****JAMMU AND KASHMIR LIBERATION FRONT (JKFL)**

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、このグループは当初、ジャム・カシ米尔国民解放戦線として結成されたが、間もなく分裂したと述べている。ジェーン社の TIC - は、「グループは、2つの主要な分派に分かれ、自分たちをそれぞれ JKFL と呼び、また Jammu Kashmir Democratic Liberation Party という別名を付している。・・・JKFL (Yasin Malik 派) は現在、非暴力組織であって、カシ米尔紛争の平和的解決を目指しているが、不合理な条件に基づいている」と報告している。一方の分派の議長は Amanullah Khan で、もう1つの分派の議長は Mohammad Yasin Malik であり、Jammu Kashmir Democratic Liberation Party の党首は、Hashim Qureishi である。ジェーン社の TIC - は、「Malik は、もう1人の穏健派であり、2004年5月と6月に All Parties Hurriyat Conference (APHC)の後援のもとに穏健派との統合を目指した協議に参加した。協議は不成功に終り、穏健派と過激派間の対立は、どちらかといえば拡大した」と述べている。

ジェーン社の TIC - はさらに、次のように報告している。

「JKFL 分派は、インドまたはパキスタンでほとんど影響力はなく、カシ米尔紛争に対する JKFL 分派の影響は無視してよい。この分派は、分離論者の闘争性を支持していないが、インド管理カシ米尔の JKFL 主導の集団は、暴力に走り勝ちである。・・・JKFL のさまざまな分派は現在、戦闘的でなく、したがって軍事指令系統を有していない。しかし、これらの分派は、国家経済問題委員会や国家少数民族・人権保護委員会を含め、さまざまな委員会に副委員長や職員を有している。・・・政治的に、グループの目標、目的および要求は、公開質問状、セミナー、集会、デモおよびインターネットを通じて公開されている。」

**JESH-E-MOHAMMADI (JeM) (JAISH-E-MOHAMMAD を参照のこと)****KHATME NABUWWAT (預言者の地位の究極性を確保するための委員会) (別称 KHATME NUBUWWAT)**

インドの分離前に小規模なイスラム教政党 Majlis-e-Ahrar として結成。伝えられるところによると正統イスラム教徒を引き寄せるため、1970年代に Majlis Tahaffuz Khatme Nubuwwat に名称変更し、より一般的に Khatme Nabuwwat として知られるようになった。この党は、アフマディ教運動の禁止とアフマディ教徒の殺害を要求したと報じられている。

**KHUDAM-UL-ISLAM (JAISH-E-MOHAMMAD-JeM を参照のこと)****LASHKAR-E-JHANGVI (LeJ-Army of Jhangvi) (MILLAT-E-ISLAMIA PAKISTAN も参照)**

### のこと)

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、ワッハブ派の教義に強い影響を受けているが、ディオバンディの伝統に従っているこの過激派スンニグループは、1996年に結成され、「存続しているが、パキスタン政府によって活動を禁止され、(2001年8月14日) 米国政府によってテロ組織と宣言された(2003年1月31日)」と述べている。

ジェーン社の TIC - はまた、次のように報告している。

「LeJ は当初、Sipah-e-Sahaba Pakistan (SSP) (預言者仲間の戦士/兵士) の暗殺者集団であった。この集団は、2002年にパキスタンによってテロ組織としてリストに記載され、その後活動を禁止された。LeJ は以前、選挙に候補者を立てる政党として部分的に活動していた。メンバーの1人は、大臣になっている。・・・LeJ は、イスラム法に基づいて、必要ならば暴力的手段により、パキスタンにイスラム教スンニ派国家を創設することを目指している。このグループはまた、すべてのシーア派をカーフィル(不信心者。文字通りでは真実を見ることを拒否する者)と宣言させることを目指している。LeJ のより広範囲の目標は、他の宗教、とりわけユダヤ教、キリスト教およびヒンドゥー教の撲滅を支援することである。」

ジェーン社の TIC - はさらに、次のように述べている。

「LeJ は、1990年にほぼ確実にシーア派過激派によって暗殺された Maulana Haq Nawa Jhangvi によって確立された理想にグループの指導者たちが従っていないという幻滅を感じて脱退した SSP の上級メンバーである Muhammed Ajmal (別名 Akram Lahori)、Malik Ishaque および Riaz Basra によって結成された。・・・Muhammed Ajmal は、現在も公式には LeJ の指導者であるが、活動指令は下級の者に移ったと信じられている。・・・SSP は、LeJ と関係ないと主張し(また LeJ は SSP と関係ないと主張している)が、LeJ はかつて SSP と一体をなしていた。パキスタン当局は、SSP の主張を退け、LeJ が SSP の最も献身的なメンバーを自分たちの兵士として採用しており、SSP の指導者が LeJ の暴力を非難するのを拒否していると指摘している。

LeJ は、タリバンと極めて密接な関係を有し、そのメンバーはアフガニスタンでの運動のために働きつつ支援している。パキスタンの「緊急指名手配一覧」に載っている LeJ と SSP の複数のメンバーはタリバンによって避難所を与えられている可能性がある。

LeJ はまた、Harakat-ul-Ansar、Hizb-ul Mujahideen、Jamaat-ul Mujahideen、Al-Umar Mujahideen、Al Badar、Tehrik-ur Mujahideen、Harakat-ul-Jihad-ul-Islami、Laskhar-e Tayyiba および Hizb-ul Mujahideen を支持しかつこれらとの関係を維持しているが、そのような関係の実効性は判断することはできない。



LeJ の武装敵対者は、シーア過激派の Tehrik-e Jafria Pakistan (TJP)および Sipah-e Mohammed Pakistan (SMP)である。・・・LeJ の主な活動地域は、ファイサルバード、カラチ、ラホール、ジャン、サルゴダそしてより最近ではクエッタにある組織的プレゼンスを含むパンジャブ州、シンド州およびバロチスタン州である。」

**LASHKAR-E-TAIBA (LASHKAR-E-TOIBA) (LASHKAR-E-TOYEBA)**  
**(JAMAAT-UD-DAWA を参照のこと)**

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、このグループは活動を続けており、名称は「Lashkar-e Tayyiba (LeT、時には LT) - 純粋な人々の軍隊(時には「高潔な人々」) - と綴られ、米国の公式文書や一般的な出版物では普通 Taiba と綴られ、また亜大陸の新聞では Toiba と綴られることもあると述べている。ジェーン社の TIC - はまた、その支持宗教は「ワッハーブ教派の影響のある過激スンニイスラム教であるが、過激スンニイスラム教だけではなさそうであり」、またグループは「2001年10月にインドで活動を禁止され、2001年12月に米 국무省によって海外テロ組織に指定され、2002年1月にパキスタンで活動を禁止されたと報告している。グループは、「アルカイダ組織に属するか、またはアルカイダ組織と関係がある」として国連によってリストに載せられている。

ジェーン社の TIC はさらに、次のように報告している。

「LeT は、Markaz-ud-Dawa-wal-Irshad(MDI:伝道センター)の戦闘部隊である。MDI は、ラホールの北 30 キロの Grand Trunk Road 沿いにある Muridke の神学校に本部を置き、パキスタンを拠点とするスンニ派宗教組織である・・・MDI は、組織名を Jamaat-ud-Dawa (JD)と変えることにより、パキスタンにおける LeT の活動禁止の合法性を避けたが、この名称は普通使用されていない。・・・MDI は、1987年に結成された。LeT のほうは、その2年後に MDI の戦闘部隊として結成された。その後、MDI の結成メンバーで、ラホールにあるエンジニアリング・技術大学の教授 Hafiz Mohammad Saeed が LeT の Amir (指導者)となった。LeT は現在、活動禁止組織であるため、その活動拠点は明らかでないが、MDI 自体は Muridke にとどまっている。

LeT は、ソビエトのアフガニスタン占領に対するレジスタンス運動に参加し、ソビエトが1989年にアフガニスタンから撃退されるまでの短い期間、米国の中央情報局とパキスタンの統合情報局 (ISI) の両方から支援を受けていた。ソビエトが敗北したあと、CIA の資金提供が終わってからも、ISI と LeT の関係は続いた。・・・LeT の全体的な目的は、亜大陸をイスラム化することであり、主な目的は IAK [インド管理カシミール] のイスラム教徒を『解放する』ことである。その公表された政策は、地域的イスラム国家の創設であり、

第一のイスラム国家はパキスタンへのカシミールの編入により創設され、第二のイスラム国家は北インドのイスラム教徒によって創設され、そして第三のイスラム国家は南インドのイスラム教徒によって創設される。LeTの指導者は第一に、パキスタンを純粋なイスラム国家に変えるためにジハード（聖戦）を要求し、第二に非イスラム政府を持つ国に対してジハードを戦うことを要求した（また、思うにシーア派支配のイランに対しても聖戦を要求した）。アミール（司令官）は、チェチニアとアフガニスタンを国際ジハードのモデルとして挙げた。LeTの主な宣伝出版物は、Jamaat-ud-Dawaの後援のもとに製作される月刊誌Majjala-tul-Dawaである。

ジェーン社のTICはさらに、次のように述べている。

「パキスタンと米国が2001年12月にLeTの資産を凍結したあと、彼[Hafiz Mohammad Saeed]は、宗教の伝道に専念すると述べて、辞表を提出した。辞任演説の際、SaeedはLeT司令官の後任としてMaulana Wahid Kashmiriを任命した。Saeedの辞任が実際に行われたどうかは疑問である。彼は依然としてLeTの指導者であると考えられうるが、公然たる闘争性から距離を置いている。・・・他のレベルの指導者は、知られていない。Saifullahという司令官と同じく、Zaki ur Reman Lakhviという名前がIAKで指導者として言及されているが、たとえこれらの名前が偽名であるとしても、名前はその保持者の有能性またはその他を評価するには無意味である。・・・LeTの勢力は知られていないが、PAK[パキスタン管理カシミール] パキスタンおよびIAK[インド管理カシミール]に十分に訓練された数百人の過激派がいると推定されている。LeTの大部分のメンバーは、パキスタンのマドラサを通じて採用され、ジハードは最も闘争的かつ不寛容な意味で、イスラム再生の不可欠な側面である。

LeTは、ほぼ非カシミール人のみから構成されており、メンバーの大半はパキスタン系パンジャブ人であり、アフガニスタン系パシュトゥーン族とパキスタン系パシュトゥーン族がいくらかいる。パキスタン系パンジャブ人の一部はLeT/MDIを明確に支持しているが、無実な人々を標的にした虐殺と手当たり次第の虐殺を伴うインド管理カシミールでの残虐行為がグループを恐れさせかつグループに対する不信を起こさせている。

LeTはおそらく、国内と地域の宗教的イスラム過激派グループと関係を維持し続けていると思われる。LeTはまた、オサマ・ビン・ラディンの「ユダヤ人と十字軍に聖戦を行うイスラム戦線」および2003年-2004年にその実効性の多くを失ったカシミールにおけるインド支配と闘っている過激派グループの結束の緩い諮問的・計画的同盟であるUnited Jihad Council(UJC)と関係がある。・・・活動は主として、IAK[インド管理カシミール]内で行われている。グループは、とりわけ視界が悪く、かつ大雪のために潜入がいっそう困難になる冬季に、南部地区へ活動を拡大している。・・・LeTは、治安部隊の基地、空港、政府施設、警

察署、駐屯地および守備隊を攻撃するために、自爆戦術のほかにヒットエンドラン戦法を用いている。これらのグループは典型的に、目標として効果のある治安部隊キャンプ、基地および警察署を襲撃している。」

**MAJLIS-E-AHRAR (KHATME NABUWWAT [預言者の地位の究極性を確保するための委員会]を参照のこと)**

**MAJLIS TAHAFFUZ KHATME NUBUWWAT (KHATME NABUWWAT [預言者の地位の究極性を確保するための委員会]を参照のこと)**

**MARKAZ-UD-DAWA-WAL-IRSHAD (LASHKAR-E-TAIBA を参照のこと)**

**MILLAT-E-ISLAMIA PAKISTAN (JAMIAT-E-ULEMA-E-ISLAM-JUI を参照のこと)**

かつて Sipah-e-Sahaba Pakistan (SSP)として知られていた JUIの離脱分派として結成されたこの組織は、その活動家が 2002 年 1 月に活動を禁止された際に名称を SSP から変更。このグループはスンニ過激派であり、2003 年 11 月に Millat-e-Islamia Pakistan という名称のときに再び活動を禁止された。(Lashkar Jhangvi も参照のこと)

**MUTTAHIDA MAJLIS-E-AMAL (MMA)**

Jamaat-e-Islami Pakistan、Jamiet-e-Ulema-e-Pakistan、Jamiet-e-Ulema-e-Islam (S)、Jamiet-e-Ulema-e-Islam (F)、Islami Tehreek Pakistan および Jamiet Ahl-e-Hadith から構成される連立政党。

**MOHAJIR QUAMI MOVEMENT (MUTTAHIDA QUAMI MOVEMENT を参照のこと)**

**MUTTAHIDA QAUMI MOVEMENT (MQM)**

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、次のように述べている。

「ムハジール族に対する公式・非公式の差別を巡る長年の憤慨と挫折を利用して、Altaf Hussain は、2つのグループ、すなわち 1978 年に All Pakistan Mohajir Students Organisation (APMSO)を結成し、また 1984 年に Mohajir Qaumi (『National』) Movement (MQM)を結成した。・・・この運動は、Afaq Ahmed と Aamir Khan に率いられた不満メンバーが MQM Haqiqi (MQM-H)党 [Haqiqi は、「真実」を意味するウルドゥー語である]を発足させた 1992 年 6 月に分裂した。Altaf Hussein の分派はその後、MQM-A として知られるようになり、名称は『Mohajir』から『Muttahida』(United)に変更された。」

ジェーン社の TIC はまた、次のように述べている。

「MQM-A は、連邦レベルと州レベルで連立政権の一部を構成する政党として活動している。・・・MQM-A は、宗教的過激主義を否定し、パキスタンのジハードグループおよび宗教政党の連立である United Action Front (Muttahida Majlis-e-Amal:MMA)に批判的である。この路線は、あまり人気のない MQM-H によって支持されている。MQM-H は MQM-A の支持者よりも戦闘的な支持者を有する。・・・MQM-A は、過激派宗教組織、とりわけ過激なディオバンディ・イスラムグループとワッハーブ派イスラムグループに反対している」。

ジェーン社の TIC はまた、次のように報告している。

「MQM-A の活動家は、ムハジール族コミュニティーの間に影響力を保持するため、敵対するムハジール族グループ、対立する MQM-H に対し主として配置されており、成果を挙げている。MQM-A の武装勢力はまた、少数民族のシンド族、パンジャブ族およびパシュトゥーン族の権利を支援する Jiye Sindh Movement を含む他の少数民族集団との抗争にかかわっている。

グループの主な活動地域は、カラチとハイデラバードである。カラチ内の伝統的活動地域は、Landhi、Korangi および Malir 地区である。

MQM の過激派は、党が中央政府と州政府に関係しているにもかかわらず、暴動戦術を維持している。暴動はカラチにおける事業活動を混乱させ、外国投資を思いとどまらせることにより、中央政府と州政府に圧力をかけることを目的としている。

グループの武装勢力はまた、対立する組織の指導者の殺害を含む他の政治暴力行為のほか、自分たちの活動に批判的と考えられる雑誌や新聞を標的とした暴力行為を行っている」。

#### **PAKISTAN MUSLIM LEAGUE (PML)**

PML Quaid-e-Azam Group、PML (Junejo)、PML (Functional)、PML (Zia-ul-Haq Shaheed)、PML (Jinnah)および Sindh Democratic Alliance が合併し 2004 年に結成。党首は Chaudhry Shujaat Hussain。

#### **PAKISTAN MUSLIM LEAGUE - NAWAZ (PML-N)**

Pakistan Muslim League (Junejo)の分派として 1993 年に結成。副党首 Javed Hashmi は、2004 年 1 月 24 日に(反逆、反乱誘引および文書偽造を含む) 5 つの訴因で起訴された。Javed Hashmi は、大統領を非難する手紙(下士官によって書かれたと大統領が主張している)の写しを配布した罪で 2003 年 10 月に逮捕された。

**PAKISTAN PEOPLE'S PARTY (PPP)**

Pakistan People's Party (Sherpao Group)と Pakistan People's Party Parliamentarians (Patriots)の合併により 2004 年に結成。イスラム社会主義と民主主義および非同盟の外交政策を唱道する。

**PAKISTAN PEOPLE'S PARTY PARLIAMENTARIANS (PPPP) (PAKISTAN PEOPLE'S PARTY を参照のこと)**

2002 年 10 月の選挙に戦うため 2002 年に結成された Benazir Bhutto の Pakistan People's Party の分派。2004 年に PPP と合併。

**PAKISTAN PEOPLE'S PARTY (SHAHEED BHUTTO GROUP)**

カラチ。PPP の離脱分派として 1995 年に結成。党首 Ghinwa Bhutto、事務局長 Mubashir Hasan 博士。

**PAKISTAN PEOPLE'S PARTY (SHERPAO GROUP) (PAKISTAN PEOPLE'S PARTY を参照のこと)**

2004 年に Pakistan People's Party と合併。

**SIPAH-E-MOHAMMAD (ムハンマドの闘士)**

シーア過激派グループ。2001 年に活動禁止。スンニ派多数派に対する攻撃を実行。

**SIPAH-E-SAHABA PAKISTAN (SSP - 預言者仲間の軍隊) (MILLAT-I-ISLAMIA PAKISTAN を参照のこと)**

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、1980 年初期に結成されたこのグループは「おそらく Lashkar-e Jhangvi (LeJ)と連携して個人および小グループとして活動している。2002 年 1 月 12 日にパキスタン政府によって活動を禁止された。2003 年に Millat-e-Islamia Pakistan (MIP)に改称。この組織のいずれの名前も 2004 年 4 月 22 日に発表された米務省の指定海外テロ組織のリストに載っていないが、SSP とほとんど区別できない MIP は、上記リストに載っている。SSP は、政党として活動しており、選挙に候補者を立てている。1993 年にメンバーの 1 人が大臣になった。しかし、組織は政府によって活動を禁止されているため、政党としても、あるいはその他の役割においても活動することはできない。MIP の多くのメンバーは、2004 年 6 月に Jhang で行われた補欠選挙をボイコットした。[グループは] 過激スンニ派である。グループの主義は、強硬ワッハーブ派およびディオバンディストの伝統と哲学を組み合わせたものである」と述べている。

ジェーン社の TIC はまた、「1985 年 9 月、Maulana Haq Nawz Jhangvi、Maulana Zia-ur-Rehman

Farooqi, Maulana Eesar ul Haq Qasmi および Maulana Azam Tariq は、後に SSP となる Anjuman Sipah-e Sahaba (預言者仲間の戦士の組織) をパンジャブ州の Jhang に結成した。・・・[ これらグループの目標は ] パキスタンをスンニ派イスラム教国家として確立することである。グループは、他のいかなる形態のイスラム教およびその他の宗教にも反対しているが、とりわけシーア派を標的にしている。グループの暫定的目標は、シーア派を公式にカーフィル(不信心者)と宣言してもらうことである。特に激しい抗争期間中、グループはイラン人の標的を攻撃したが、これはグループがパキスタンにおいているシーア派イスラム教を奨励しているとイランを非難しているからである。・・・SSP の現在の指導者は、分かっていない。指導者の名前が公になった場合、指導者はパキスタンのテロ対策法に基づいて拘留されるものと思われる」と報告している。

ジェーン社の TIC はさらに、次のように報告している。

「SSP は、その分派である LeS [Lashkar-e-Jhangvi] と緊密な関係にあり、攻撃の責任を決定する際に互いに区別することはしばしば不可能である。SSP の党首は、パキスタン・カシミール組織である Jesh-e Mohammadi (JeM) とグループの関係を「ジハードにおいて JeM と手に手を取って・・・力を合わせている」と称しているが、インド管理カシミールにおいてグループとして活動上の役割を果たしているという証拠はない。

SSP は、Harakat-ul-Ansar、Jamaat-ul Mujahideen、Al-Umar Mujahideen、Al Badar、Tehrik-ul-Mujahideen、Harakat-i-Jihad-Islami、Laskhar-e Tayyiba および Hizb-ul Mujahideen を支持している。SSP は、タリバンとアルカイダへの支持を表明しており、1993 年のワールド・トレードセンター爆破事件で有罪となった Ramzi Ahmed Yousuf と何らかの関係があったと主張されている。・・・SSP は、パキスタン全土で活動しており、国内最強のテロ組織の 1 つである。支援の中核地域は、SSP が 500 個所の事務所を置いているパンジャブ州であった(現在もそうである)が、SSP は 4 つのすべての州に代表を置いている。SSP は、主にマドラスを支援することを通じて、北西辺境州で影響力を増している。

パンジャブ州における SSP の拠点は、Jhang, Sargodha, Bahawalpu, Multan および Muzaffargarh であり、最も際立った攻撃のいくつかが行われたラホールに多数の支部を有し、またカラチに強力なプレゼンスを有している。SSP が 2004 年 1 月にラホールで支部を復活させようとした証拠がある。伝えられるところによると、SSP は海外にプレゼンスを有し、サウジアラビア、バングラデシュ、カナダ、イギリスおよびフランスを含む 17 ヶ国に代表を置いている。SSP は依然として、上述した地域でかなりの影響力を有し、かつ支援を得ているが、正式な組織は持っていない。SSP の過激派の個人と小グループは、独自にまたは LeJ (同じく活動を禁止されている) の支援を得て活動を続けている。その外国事務所は、活動を止めている。

SSP は、2つの基本的攻撃方法を有する。すなわち、重要な個人、通常はシーア派の著名人または SSP の敵対者の暗殺および通常、モスク、行列または結婚式のような大きな集まりで SSP の武装犯がシーア派を襲撃する場合の大量殺戮である。・・・活動が禁止されているにもかかわらず、マドラサでは依然として SSP の影響がかなり残っており、各マドラサで勉強している若者に対して軍形式の訓練が行われているようである。・・・SSP は、もはや有力な組織勢力でない。警察と治安部隊による取り締まりが組織としての SSP をほとんど壊滅させたが、個人と小グループが活動を続けており、これらがシーア派とキリスト教徒にとって大きな脅威となっている。・・・2004年7月中旬、上級警察官、裁判官、とりわけテロ対策裁判所に関係した裁判官を標的にした暗殺が行われ、警察官と裁判官に対する脅威は増している。」

**TANZEEM-E-NIFAZ-E-SHARIAT-E-MOHAMMADI (TNSM) (別称 TEHRIK-NIFAZ-E-SHARIAT-E-MOHAMMADI)**

2003年10月7日のBBCのニュース報道は、TNSMはサウジアラビアのワッハーブ学派の信奉者である Maulana Sufi Mohammad によって結成された過激スンニ派イスラム教徒グループであり、「グループはパキスタン北西にある Malakhand の拠点でイスラム法の実施を求めて暴力的な運動を行っている。・・・昨年[2002年]10月、Sufi Mohammad は米国が指揮する軍隊と戦っているタリバンを支援するため、数千人の支持者と共にアフガニスタンに渡った。しかし、Sufi Mohammad は、タリバンの崩壊後すぐにパキスタンに戻り、拘留されたと述べている。TNSM は、2002年1月にムシャラフ大統領によって活動を禁止された5つの過激派グループの1つである。」

**TANZEEM-UL-FURQAN (JAMIAT-UL-FURQAN を参照のこと)**

**TEHRIK-E-INSAF (正義のための運動)**

ラホール。1996年結成。指導者 Imran Khan

**TEHRIK-E-JAFRIA-E-PAKISTAN (TJP) (ISLAMI TEHRIK-E-PAKISTAN を参照のこと)**

**TEHRIK-E-PAKISTAN (旧 TEHRIK-E-JAFRIA-E-PAKISTAN)**

このシーア派過激派グループは、Tehrik-e-Jafria-e-Pakistan として1987年に結成された。その活動家が2002年1月に活動を禁止されたあと、名称を Tehrik-e-Pakistan に変更した。ムシャラフ大統領により2003年11月に Islami Tehrik-e-Pakistan の名称で活動を禁止された。指導者は、Allama Sajid Ali Naqvi。

**TEHRIK-NIFAZ-E-SHARIAT-E-MOHAMMADI**

(TNSM)

(TANZEEM-E-NIFAZ-E-SHARIAT-E-MOHAMMADI を参照のこと)

**UNITED JIHAD COUNCIL**

ジェーン社の Terrorism and Insurgency Centre のウェブサイト - ジェーン社の TIC - は、この Council の目標の 1 つは、「パキスタンへのインド管理カシミールの加入およびパキスタンにイスラム教徒政府の樹立」であると述べ、次のように報告している。

「United Jihad Council (UJC)は、以前結成されていた組織のメンバーの集合体である。この党は、Harakat-ul-Mujahideen (HuM)、Jesh-e-Mohammadi (JeM)、Lashkar-e-Tayybia (LeT)、Hizb-ul-Mujahideen (HM)、Al Badar、Jamiat-i-Islami (Jamiat)および Harakat-ul-Ansar (HuA)によって結成された。メンバー資格は緩やかで、メンバーは頻繁に変わっている。

この好戦的で親パキスタングループは、UJC と関係があり、その指導者 Syed Salahuddin は 2004 年 10 月 20 日、インドとのカシミール交渉に関するムシャラフ大統領の路線を支持した。LeT は、ラホール近郊に本拠を置く Markaz Da'wa wa'l Irshad の戦闘部隊である。HM は、Jamiat-e-Islam の戦闘部隊であるが、グループはカシミールにおける抗争から距離を置いている。・・・この最も過激的なグループは、1990 年代末に民族抗争が始まったカシミールで活動を開始し、多くの非カシミール過激派が 1994 年以降、抗争に参加した。HuM は、1980 年代に結成され、Lashkar-e-Tayyiba は 1987 年に、Al Badar は 1998 年に、そして JeM は 2000 年初めに結成された。Jamiat-e-Islami は 1941 年に結成された。・・・UJC と関係があるさまざまなグループのすべては、独自の指導者と組織を有する。HM の指導者は、Syed Salahuddin (本名は Mohammed Yusuf Khan) で、時には Maulvi Yousuf Shah と呼ばれている。彼は、パキスタン管理カシミールのムザファラバードに住んでいるが、パキスタン政府によって地域に入ることを正式に禁止されている。(彼は、UJC の議長の資格で 2004 年 11 月 19 日にムザファラバードでメディアインタビューを行った)。

JeM は、Maulana Masood Azhar によって創設され、同氏が党首を務めている。同氏は、ハイジャック危機の終結に関する合意の一環として 1999 年末にインドの刑務所から釈放されたあとグループを結成した。Let の党首は、ラホールにあるエンジニアリング・技術大学の元イスラム学の教授であった Hafiz Mohammed Saeed である。Al Badar は、Nasser Ahmed と Bhakat Aaman が党首を務めている。HuM の党首は、Fazl-ul-Reman Khalil である。」

ジェーン社の TIC はさらに、次のように述べている。

「UJC (Muttahida Jihad Council:MJC としても知られている) は、インド管理カシミールでの暴動に対するインドの残忍な弾圧のあと、1990 年 11 月に結成された。UJC は、パキスタン管理カシミールのムザファラバードに本部を置き、ラウルピンディに事務所がある。組



織の目標は、すべての過激派グループを 1 つの旗のもとに結集することであった（おそらく現在もそうである）。この目標はある程度までは達成されたが、組織は『司令部』のもとに部隊を持つという軍事的意味においてもはや実戦に役立っていない。・・・UJC の大規模な再編が行われているという報道が 2005 年初めになされたが、さまざまなグループが相手グループと意見を異に、またグループ内でも仲たがいをし、時には過激な暴力にも発展するという気質を考えると、この再編がどのような実効性があるかは定かでない。

**附属書 C:著名人****政府****大統領**

General Pervez Musharraf (ペルベズ・ムシャラフ将軍)

**首相**

Shaukat Aziz (シヨーカッタ・アジズ)

**外務大臣**

Mian Khurshid Mahmud Kasuri (ミアン・クルシード・マウマド・カスリ)

**商業大臣**

Humayun Akhtar Khan (フマユーン・アクタル・カーン)

**文部大臣**

Javed Ashraf 中将 (退役)(ジャヴェド・アシュラフ)

**厚生大臣**

Muhammad Nasir Khan (ムハマンド・ナシル・カーン)

**産業・生産・特別構想大臣**

Jehangir Khan Tareen (ジェハンギール・カーン・タリーン)

**情報・放送大臣**

Sheikh Rashid Ahmad (シェイク・ラシード・アフマド)

**労働・人材・海外パキスタン大臣**

Ghulam Sarwar Khan (グラーム・サロワル・カーン)

**鉄道大臣**

Mian Shahmim Haider (ミアン・シャーミン・ハイダー)

**電力・水道大臣**

Liaquat Ali Jatoi (リアカッタ・アリ・ジャトイ)

**防衛大臣**

Rao Sidandar Iqbal (ラオ・シダンダル・イクバル)

**内務大臣**

Aftab Ahmed Khan Sherpao (アフターブ・アハメド・カーン・シェルパオ)

**薬物取締大臣**

Ghaus Bux Khan Maher (ガウス・ブクス・カーン・マヘル)

**石油・天然資源大臣**

Amanullah Khan Jadoon (アマヌラー・カーン・ジャドーン)

**情報技術大臣**

Awais Ahmed Khan Leghari (アワイス・アハメド・カーン・レガリ)

**食料・農業・家畜大臣**

Sikander Hayat Khan Bosun (シカンダー・ハイア・カーン・ボスン)

**国家・辺境地域大臣**

Sardar Yar Muhammad Rind (サルダー・ヤル・ムハンマド・リンド)

(注釈 - 上述したのは大臣のすべてではない)

**AZIZ, Shaukat (アジズ、ショーカット)**

BBC の 2004 年 8 月 19 日付けショーカット・アジズのプロフィールは、次のように述べている。

「パキスタンのショーカット・アジズ首相は、元民間銀行家で、パキスタン経済の最近の改革で実績をあげた。世界の金融専門家に注目されている元シティバンク幹部のアジズ首相は、ペルベズ・ムシャラフ大統領によってトップポストに選ばれた。元首相の Zafarullah Khan Jamali 氏が 6 月に辞任した際、与党は財務大臣であったアジズ氏が後継者になる旨を宣言した。同氏は先ず、大臣になるための要件として、議会で議席を得る必要があったが、8 月の補欠選挙で議席を獲得した。アジズ氏は、Pakistan Muslim League (パキスタンイスラム連盟) の党首で、臨時に首相を務めていた病弱の Chaudhry Shujaat Hussain 氏のあとを継いだ。洗練され、着こなしの上手なアジズ氏 (55 歳) は、陸軍参謀総長であったムシャラフ将軍が 1999 年にクーデターを行ったあと、同将軍の政府に参加した。当時、不況であっ

た経済は、同氏の就任以降、毎年 6.4%の成長を遂げていると報告されている。・・・アナリストは、首相としての同氏的主要な務めは、連邦政府の日々の運営を改善させることと、政策がより実効的に実施されるようにすることであると述べている。結婚して 3 人の子供がいるアジズ氏は、パキスタン南部にあって、同国の首都である商業都市カラチで生れかつ育った。同氏は、カラチの Institute of Business and Administration から経営学位を取得後、1969 年にシティバンクに入社し、世界金融での 30 年にわたるキャリアの頂点でニューヨークの同銀行で上級幹部の地位に上り詰めた。・・・[ 2004 年 ] 7 月 30 日にパンジャブ州で補欠選挙の運動を行っていた際、同氏は暗殺を逃れた。」

### **Bhutto, Benazir (ブット、ベナジール)**

2005 年 8 月 5 日の BBC ニュース報道は、次のように述べている。

「1953 年にシンド州で生れ、ハーバード大学とオックスフォード大学で教育を受けたブット女史は当初、政界に入ることを躊躇していたが、父親の名声により信頼を獲得した。同女史は、1988 年から 1990 年までと、1993 年から 1996 年まで 2 回パキスタンの首相を務めている。2 回とも同女史は汚職事件で大統領から解任された。・・・同女史は、父の死亡 [ 父が 1977 年に Zia-ul-Haq 将軍によって投獄され、殺人罪で起訴された 1979 年 ] の直前に投獄され、5 年間の懲役の大部分を独房で過ごした。・・・治療のため出獄していた間、ブット女史はロンドンにパキスタン人民党を旗揚げし、反 Zia 運動を開始した。同女史は、1986 年にパキスタンに戻り、政治集会に多くの民衆を集めた。1988 年に Haq 将軍が搭乗していた飛行機の爆発により同将軍が死亡したあと、同女史は民主的選挙によって選ばれたパキスタン初の女性首相となった。・・・同女史は、自分に対する汚職容疑をきっぱりと否定し、この容疑は政治的意図に基づいたものであると述べている。しかし、同女史は有罪判決を受けた直後の 1999 年にパキスタンを去り、外国で生活しており、それ以来パキスタンに戻っていない。」

Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、しかし、2001 年 4 月に最高法院は、汚職の有罪判決を無効とし、再審を命じた。2001 年 6 月、同女史は汚職の起訴に答弁するため裁判所に出頭しなかったために不在のまま 3 年間の懲役を宣告された (同女史はドバイに住んでいた) と報告している。

2003 年 11 月の Keesing's Record of World Events (キーシング世界事件簿) は、2003 年 11 月にスイスの裁判所は、マネー・ロンダリングの罪で (2003 年) 8 月に下された有罪判決に対するベナジール・ブット女史とアシフ・アリ・ザダリ氏の上訴を支持したと述べている。

### **BHUTTO, Zulfikar Ali (ブット・ズルフィカル・アリ)**

Encarta Online Encyclopedia 2005 は、ブット氏は 1928 年にシンド州で生れ、代々イスラム教

徒の地主と政治家の家系の子孫であると報告している。1967年にパキスタン人民党を結成。1970年の選挙で西パキスタンで過半数の議席を獲得。(東パキスタンからバングラデシュの創設をもたらした) 1971年の内戦のあと、ブット氏は1971年12月にパキスタンの大統領兼戒厳令司令官となった。1973年8月に新憲法が採択されたあと、同氏は首相となった。同氏は1977年3月に再選されたが、(1977年)7月に軍事クーデターで Muhammed Zia ul-Haq 将軍によって退陣させられた。同氏は、1974年に政敵の殺害を許可した(同氏は否認している)罪で有罪となり、1979年4月に絞首刑に処せられた。

### **JINNAH, Muhammad Ali (ジンナー、ムハンマド・アリ)**

Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、ジンナー氏はムスリム連盟の指導者で、Quaid-i-Azam (「偉大な指導者」)として知られていたと報告している。1947年8月にパキスタンが創設されたときにパキスタンの初代総督となったが、翌年死亡した。

### **HUSSAIN, Altaf (フセイン・アルタフ)**

Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、フセイン氏は統一民族運動 (Altaf) - MQM(A)の指導者で、1994年にテロ容疑で不在のまま27年間の懲役を宣告されたと述べている。

### **MUSHARRAF, Pervez (ムシャラフ、ペルベズ)**

ムシャラフ氏を紹介している2004年9月24日付けのBBCのニュースは、次のように報じている。

「ペルベズ・ムシャラフ氏は、1943年8月にデリーで生まれた。同氏の家族は、インド亜大陸の分離の際にパキスタンに移住してきた。同氏は、パンジャブ人が支配的なパキスタン陸軍の将官クラスに属さず、ウルドゥー語を話すカラチの家族に属するという事実にもかかわらず、低い身分から身を起こした。同氏は、1964年に軍歴をスタートさせた。ムシャラフ将軍は、パキスタンで大きな勢力を誇った陸軍参謀総長 Jehangir Karamat 将軍が、陸軍はパキスタンの意思決定プロセスにおいて重要な役割を与えられるべきであると要求した2日後に辞任したために参謀総長に昇進した。陸軍参謀総長が辞任したのはこの時が初めてであった。多くのオブザーバーは、この事実をシャリフ首相の政治力が長期の文民政府の将来を確保するのに十分な強さになった徴候であると見なした。・・・1999年10月にシャリフ首相がムシャラフ将軍を解任しようとした際、同将軍はパキスタンに『真の民主主義』をもたらすことを約束して権力を握った」。

BBCのタイムライン「パキスタン」は、次のように述べている。

「2001年6月20日 - ペルベズ・ムシャラフ将軍は、陸軍参謀総長にとどまったまま、自らを大統領に任命した。同将軍は、名目上の Rafiq Tarar 大統領の後を継いだ。同大統領は、

自分を選んだ議会在解散したあと、早い段階で地位を明け渡していた。・・・

2002年4月 - ムシャラフ大統領は、違憲と非難され、また数々の不備を指摘された国民投票でさらに5年の任期を獲得した。

2002年8月 - ムシャラフ大統領は、選出議会在解散する権限を含め、自分自身に対し新たな包括的権利を与えた。野党は永続的な独裁権を維持するものだとしてムシャラフ大統領を非難した。

2004年12月 - ムシャラフ大統領は、陸軍参謀総長としてとどまる旨を発表した。同大統領は以前、陸軍参謀総長を辞任すると約束していた。

#### **SHARIF, Mohammad Nawaz (シャリフ・モハマド・ナワズ)**

Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、シャリフ氏はかつて、パンジャブ州の首席大臣で、1990年10月の選挙でイスラム民主同盟を勝利に導き、首相に任命されたと報告している。シャリフ氏は、同氏を「失政、同族登用および汚職」と非難したイスハーク・カーン大統領によって1993年4月に解任された。シャリフ氏の政府は、最高法院が大統領の命令は違憲であったと判決したあと、権力を復活させた。パキスタンムスリム同盟のシャリフ氏の分派（Junejo グループ）は、1993年10月の選挙で完全な過半数を獲得しなかったが、1997年2月の選挙の結果、圧倒的人気で政権につき、その後シャリフ氏は再び首相となった。同氏は、1999年10月12日の軍事クーデターで転覆させられ、2000年4月にハイジャックとテロ行為で2つの終身刑を宣告された。2005年2月28日に発表された米國務省 Report 2004 (USSD) は、シャリフ氏は政府との2000年の協定に従い、サウジアラビアに亡命していると報告している。

#### **UL-HAQ, Mohammad Zia (ウル・ハク・モハマド・ジア)**

Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、ウル・ハク氏は大将兼陸軍参謀総長で、1977年7月のクーデターのあと、戒厳令司令官に任命されたと述べている。同氏は、1978年に大統領となり、パキスタンの制度の「イスラム化」政策を押し進め、この政策は1984年12月の国民投票で確認された。戒厳令は、1985年12月に廃止され、憲法が復活した（前年10月改正）。同氏は、1988年8月17日の航空機墜落事故で死亡した。

#### **ZARDARI, Asif Ali (ザルダリ、アシフ・アリ)**

Europa Regional Surveys of the World: South Asia 2005 は、ザルダリ氏はベナジール・ブット女史の夫であり、1990年にPPP政府が解散したあと、恐喝、誘拐および財務的不正行為の容疑で逮捕された（同氏は、その後すべての訴因で無罪となった）。1996年7月、同氏は、自





















